六年一月一日發行　大正五年十二月廿八日印刷納本
治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十四巻　一月號

要目

女子青年界第十四巻第一號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume (XIV) January 1917 Number 1.

祝クリスマス
謹賀新年

日本基督教女子青年會本部

従來の御援助を感謝し尚一層の御同情を賜はらん事を願ふ
天よりの御恩寵姉妹方の上に豊にあらん事を祈る

幹事 河井道子
同 ミス、マシユー
事務員 ミス、ガンター
同 松宮信子
同 袖山愛子
幹事豫備 ミス、エマソン
同 ミス、ハート
同 ミス、グーリン

祝クリスマス
謹賀新年

横濱女子青年會

新事業の一端として渡航者講習會を開始せしを以て好結果を修むる様諸姉の御盡力を仰ぐ

幹事 ミス、レーガン
渡航者係 吉田いと子
事務員 鈴木さだ子

東京基督教女子青年會

幹事　加藤高子
同　ミスペーヂ
同　渡邊百合子
事務員　小篠まさ子
第一寄宿舍舍監　門倉藤子
第二寄宿舍舍監　大西絹子
第三寄宿舍舍監　有田玉子
旅行者之友係　林房子
好友園　世良田勇子
同　古谷たまき

祝クリスマス

謹賀新年

女子青年界

第十四卷第壹號

一月號

大正六年一月一日發行

若き人は何によりてか其の道を清めん、聖言に從ひて愼むのほかぞなき。我心を盡して汝をたづね求めたり。願くば汝の誡命により迷ひいださしめたまふなかれ。われ汝に向ひて罪を犯すまじき爲に汝の言を我が心のうちに藏へたり。讃むべきかな、エホバよ。願くば律法を我に敎へたまへ。われ我が脣をもて汝の口より出でし諸の審判をのべつたへたり。我もろ〳〵の財寶をよろこぶ如くに汝のあかしの道を喜べり。我なんぢの訓諭を思ひ、汝の道に心をとめん。我は律法を喜び、聖言を忘るゝことなからん。

（詩篇第百十九篇）

「女よ起きよ」

河井道子

昔猶太の國にヤイロと申す高等官吏がありました。十二歳になる一人の愛娘が大病に罹りまして有りと有らゆる名醫にかけて、治療に手を盡しましたが其効果なく、益々瀕死に陷る計りでありました。親は堪へ兼て遂に基督の名聲を聞き來りて其許にひれ伏し其女を醫し給はん事を願ひました。基督は其家に行かるゝ途中、最早其女は事切れたとの訃音に接しました。然し基督は構はず家族親戚の泣き騷ぐ中に入り彼等を慰め給ひ女の傍に行き其手を取つて「女よ我汝に命ず起きよ」と申されました。すると直に彼女は起きて歩み、全く醫されました故、是に食物を與へ元氣付かしめて後、基督は靜かに此家を立去られたとのことが福音書に出て居ります。

今日、年は大正も六年と改まり新しき年を迎へましたに就きまして、私は茲に十二歳の女の蘇生された物語りを取つて私共の新生命に當嵌めて考へて見たいと思ひます。

誰れが新年を一番歡迎するかと云へば子供であります。新しき着物に新しき下駄、本も手帳も文房具も果ては風呂敷さへも、新しいのが嬉しいのは小兒の自然であります。何んでも物を新しくするといふには希望が含まれて居ります。希望は青年の精神であつて、愈々進んで未だ見ざる處のものを捕へんとする信仰の發足點であります。それ故老人は過去を

語り青年は未來を語るのであります。未來＝將來といふ活氣滿々たる希望なき者は子供青年ではありません。ありましてもヤイロの女の如くに病み疲れて或は死んで居るのであります。玆に「女よ起きよ」との聲は如何してもなければ甦る事は出來ません。
本會は名の如く若き方々の好伴侶たらんを常に目的として居ります。今世間一般に若き女子を觀ますのに、ヤイロの女の樣に死人同樣の者が多いのは如何なる次第でありませう。普通よりせば智德體の三育も靈性上の發育も、十二歲頃より二十二三歲迄が最高潮であります。然るに此年頃の女子に纖弱用をなさず被護さるゝ者多く、智識上の慾望少なく只空瓶の如く他より注入さるゝを以て滿足し道德上に於ては消極的にして他に向ひて同情を寄するとか奉仕するとかの念皆無の有樣、靈性に至ては己に靈の存在さへ問はざる者が大多數といふてもよろしい程で御座います。所謂現實的に流れて只唯物主義。精神的に發展しやうとか、神に依つて將來活動し樣とかなどと考へない者は恰かもヤイロの女の樣に死人と申すも過言では御座いますまい。十四五歲の少女にして頭痛に苦しみ背が痛いとか足が惡いとか運動が嫌い立働きは面倒と思ふ樣な人は之れ病的なのであります。人の缺點を見る事意地惡き姑の樣で、妬み憎み、與へずして受る事のみを希ふは、是老衰病であります。又智識を磨くにも只學校の試驗のみを氣づかひ、又文學と稱して野卑なる害ありとも益なき書物を耽讀し、美文との名目の下に軟弱なる駄文を投書するが如きは矢張皆病的であります。宗敎といへば老人のものと心得眞面目なる話を厭ひ人の目を恐れて神を恐れず、將來の立身出世を神無くして希ふなど、皆根本に致命の病毒ある徵候であります。如何にしても若き人々は此等の古き習慣、思想、惡傾向罪等を古き年と共に捨てて新年と共に新生命に蘇生らなければなりません。然もなければ丁度生きながら腐れる夏の日の鯖の如きものであります。是非とも青年諸子は此新年に當りて新生涯に入るとは

如何なる意味なる』かを考へていたゞきたいと思ひます。静かに此等の事を考へ且祈らるゝ姉妹方には必ず「女よ起きよ」との主の御聲が聞える事と思ひます。諸子は老人を世話すべき人將來有爲なる選拔された人であります。決して親を泣かせ年長者に厄介を掛けてのみ居るべき人ではありません。殊に神を信仰する念慮がなければ到底若き活氣に滿てる生命は得らるゝものではありません。然も信仰心は年若き時に湧くのでなければ殆んど六ッ敷と云ふても宜しいのであります。是は西洋の話でありますが或集會に四千五百人の人が集まりました。其中四百人は十歳以下にして基督に來りし者、又六百名は十歳より十二歳迄、尚六百名は十二歳より十四歳迄、千人は十四歳より十六歳迄、五百名は十六歳より廿歳迄二十五名丈は三十歳以上で既に信仰生涯に入りたるものであつたと申します。又同じ聽衆の中百人の牧師が居りましたが、其大多數は十六歳以前に基督を信仰するに至りたるものでありまして、十五名丈けが二十歳以上になつて神を信じたのであつたと申します。是等の事實を考へて見ましても、青年時代が宗教心の勃興する時代と云ふべきで御座いませう。名高い説教者パーシャン先生やムーデー先生の如きは皆二十歳以下にして神を信じ、其れに依つて將來の目的を立てた人であります。聖書にも若き人の話が澤山記されて居ります。癲癇をわづらひ、父に伴なはれて基督に來りし子供。氣狂の娘を持ちし母が基督の助を乞ひたる話。或は五ッのパンと魚三ッを以て基督の奇蹟を助けし童。弟子達の高慢を戒しむる爲め彼等の前に「此幼子の如くなれ」と示されし子供。又舊約には夜中に神の聲を三度聞きしサムエルの如き者があります。所詮一方は病的又は死人にして一方は活躍せる壯健なる青年であります。神は今日も尚若き人が老衰せず益々健全なる希望に滿たされ以て將來を望み己の爲めのみならず人の爲め家の爲め國の爲め神の爲めに活動の出來る人物を諸子の中に養成せんとして「女よ起きよ」と常に呼起して居

られます。諸子は早く其御聲を聞かれ、立ちて歩み宜しく將來の準備を今日より新しく爲さるゝ事の大切なるに注意し、進んで其の實行に着手せられんことを切望して止まない次第であります。是れ此の新年に於ける最要にして、また、最急なることで御座います。

崑崙や不斷の雪に初日映ゆ　（御題）
奥の院行けども〳〵落葉哉
二階一杯明け廣げたる初日哉

大森居猿男

渡米婦人は成功しつゝありや（其三）

河井道子

前二回に渉り寫眞結婚にて田園市邑の生涯に入れる同胞姉妹の一班を述べましたが、本號にては既婚女子の生活の概略を申上げたいと存じます。毎號御斷り申上ます樣に、勿論例外の事も往々にありますから、私の言ふ所が個人々々に一々當嵌るといふ事にはならない點がありますけれども、其等の事は何卒斟酌してお讀み下さる樣に先以て御願ひ申上げて置きたいので御座います。

渡米以前日本にて既婚した婦人は其夫たる人の官吏、教育者、實業家、勞働者と其の位置が異るにつれて、自ら其の境遇も違ひます。しかし其位置境遇を離れて、是等の婦人を評しますれば、大別して二組に分けて申上げることが出來ます。第一は進取的第二は因循的とでも申しませう。進取的と申しますのは成べく西洋のよき處を見倣つて同化せんと勉める母妻であります。此の大多數が英語の素養が幾ら

かあるか或は經濟の方にも餘り困難を感ぜぬ婦人達の中にあるは自然の勢で御座います。假令夫が勞働し、また妻も共稼と申す樣な家庭でも、女の氣象が堅固である處では進歩的であります。子供に衣服を着せますにも米國の子供が着て心地よささうな物の形も色も小瀟洒したもの、又家具も小々づゝは整へ額でも汽船會社や吳服店等の廣告的美人の繪など掛けぬ、日々知らぬ事は英語が下手でも手眞似足眞似しても、習ふと云ふ樣な婦人は、身分が如何に賤しくとも必ず成功する人であります。或小村落に日本人の靴商店がありました。其の主婦は五十歲計りの活々した勝氣の評判のある人であります。店では靴と其の附屬品とを賣り、夫は靴を手製したり、直したりして、日本人やメキシコの顧客を多く持つて居ります。其の店の後の部屋が夫婦の居間、寢室、食堂の凡であります。普通から申せば、かゝる兼用室は亂雜になり易く、又見苦しき事が多いものでありますが、私は其の處に通されて實に片付いてゐるのに驚きました。部屋は可なり大なのですが、第一に隅の臥床は屏風で立廻してありますから、少しも分りません。其傍の壁には夫妻の洋服數着が皆布か紙の袋で一々包まれて、整然と掛けてあり、床板は摩り磨いて食卓の如く清潔にしてあつて、塵一ッ見えませんでした。

片隅にある流元は日當りよき窓下にあつて、日本座敷の床間程の手入がしてありますし、其隅の數段になつて居る棚には、宛然藥店と葉茶屋とを兼ねた如く、一々貼紙をした鑵や壜が列をなし、大小の鍋が皆磨かれた上に、日光が當つてピカ〱と光を四方に放つて居ます。卓上の布には、洗濯火熨斗が行屆き、夏とは云へ蠅一匹も居らぬ清潔さ、實に〱感服致しました。主婦は甲斐々々しく、茶を進め、「私共の這麼部屋でもジョンソン監督が御巡廻の時は、何時でも此室で一所に御飯を戴きますし、色色と西洋や日本の御客樣が光來になりますが、皆此室で御待遇致して夫婦で喜んで居ります」との言葉

に、尚更感入りました。斯かる婦人を私は進取的の人と申すのであります。大廈高樓に住みながら、氣不精の人や、高慢な人は退歩的であります。又加州の諸所で相當にして居らるゝ感心な方々にも隨分逢ひました。某夫人の如きは位置もあり、學識才色共に備り居られ、其上米國の美風に留意して、公會にも時間の都合出來る限りは出席して見聞を廣くし、子供の行く學校を參觀したり、受持の教師と交際をして、發育の方針を定め、食事や起臥の時間を正確にし、約束を守り、衣服帽子等も西洋の上品と下品とを辨まへて身につけ、他人の爲に陰日和なく働き加之内外人との交際も華美にならぬ丈はして居らるゝ夫人であります。此種の婦人達は或は日本にあるよりは却つて立派な發達進歩をなさると思ひます。

結局日本の如き餘り世人が酷評する、社會や親類、緣、者が皆で小事に至るまで家族主義を振り廻はす處では子供や子供然たるお嫁さん達には、適當でしても少しく自分の思慮もあり、實行も試みたりする實力的の婦人方には、自由の行動の取れる方が進歩であるかと思はれます。私が深く同情を持ちましたのは牧師や教師の如く献身的に活動される人々の夫人であります。米國の如く生活費の高い處で、僅の收入で家政を上手に執り、子供を教育し、交際を廣くし教會を補佐し、獨身者を招待して慰籍し奉公者の世話や、夫婦爭の仲裁等迄せねばならぬのが、普通牧師夫人の責任であります。大概は教育あり信仰る姉妹ですから、かゝる困難と戰ひつゝありますが、時には敗北されたとて決して無理ではありません。世人が彼等婦人に要求する事多くして國情が薄いのであります。然は云へ、教會の盛衰は矢張り牧師の夫人が大に與つて力があります。此反對に金融の都合よき夫人や西洋の華美な風を眞似る姉妹方の中には、演戯とか夜會とか、茶話會の園遊會のと、此等の話が出來て、衣裳や化粧の品評會の如き會話が進歩した者と心得て、……米國の教育とか宗教とか社會事業とかは、一つも耳にした事なく、稀にありたりと

て面倒とのみ鼻扱にして居る者は矢張り因循的の連中に這入ります。殊に目立ちて因循なのは何事も面倒だと思ひ努力せぬ姉妹であります。勿論、子供が澤山あり、人手が無く、萬事萬端一人でしなければならぬ境遇の女子が外出も出來ず、又する勇氣の消滅するのは無理ではありません。併し一般日本婦人には面倒臭いと申す事が、本邦に在つてさへ強いのであります。其故折角招待されても行くのが面倒であり、話が面倒でありして、時間のあるのに、先方の厚意を無にするのであります。「西洋人の樣に出好きにはなれません」とよく口癖に申す人があります。是れは交際の眞意を知らぬからの言葉であります。即ち客の方でも主人側の人々に愉快なる念を抱かしむる責任があり、決して只御馳走を食べたり又待遇されるとか云ふのみでなく、相互の友情を溫め見聞を廣くする意味であります。それ故、自分の宅で平素食事するより粗末な御馳走に態々招かれても汽車賃や自動車賃を拂つても參ります。其上客は主人が待遇にのみ氣を揉まぬ樣氣をきかして、面白き會話や笑話で座を賑々しくするのであります。一度紐育で日本人四名が、若き米婦人四名を日本食に招きました處、此婦人等は皆主人側の日本人は何の趣味を持てりや、何の目的にて渡米せしや、家族の有る人なりや等と委敷調べて會話の材料を充分に造り其上で出掛けた事があります。此邊を視ても客は只々食事したり、奉仕される丈のものでない事が明瞭でありませう。曾て一婦人が申しました「私は此市にある日本婦人は嘸かし淋しくあると思ひ、又私共の住居の樣子を、寢室から臺所までも見て、廣い庭で一日遊ばれたらば幾分か慰めとなる事と思ひ、此地にある日本女子を六十名以上招待しました。彼等の住所姓名を大層骨折りて調べて貰ひ、一々招待狀を出しましたが、當日來た人は三人で返事を呉れたのは二三名でした。其後日本人は私共と交際が嫌なのと思ひ何も盡力したくなくなりました」と之を聞いた私は、何とも辨解の仕樣がなく、只々お詫びを

致しました。尤も談語が出來ぬと外出はいやであり、又衣服が整頓せねば失禮でもあるから、訪問するのに困る事もありますが、面倒臭いとて、これ等の親切を無にして返事さへ出さぬとは悲むべき事であります。是も日本に居る中に斯る點に就いて教育をされ居らぬからの失敗であります。又英語が出來ぬとて少しも使用もせず聞きもせねば如何にして上達致しませう。假令グードモニング丈も知居らば其一言を朝も晝も夜も挨拶に使ひ自分も笑ひ人も笑ひなどして居る位の雅量のある人ならば必らず進歩するのであります。衣服とて立派なものは着ける必要がありません。清楚したものを着けて居りますならば、僅位流行的でなくとも西洋人は笑などは致しません。若し妙な衣服だと自分で思へば是を如何したばよいかと尋ねて教はる樣にするならば教へて呉れます。餘り人から笑はれるかと其計り氣にする人々は到底進歩の見込のない人であります。惡事をして笑はれ恥をかく事は謹むべきですが、外國にて事物に暗く、其を知らぬから尋ねたとて、笑へば笑ふ者が愚人小人であります。何でも知らぬは知らぬ、然りは然り、否は否と正直にして習ふ精神のある人が進歩するのでありませう。日本にありし時の奥樣風は米國に持出したとて役に立ちません。子供の精神で謙遜的に又柔順に學ぶ心掛が第一であります。此決心なき婦人は何年在米したとて米國の風習が了解出來ず、却つて誤解しながら、其を眞個と傳へて、折角金山に入り乍ら手を空しくして歸る人の如く、子供の教育、家庭の良風、社會の改善、人道の進歩等眼前にありつゝも盲人の如く何も見ないで歸朝したり、又彼地で果てるとは殘念至極であります。私は此種の既婚者にも往々遭遇したのであります。

降らば雪冬空幾日曇りけり
ナイヤガラ横に一里の氷柱哉

現代の大洪水

衆議院議長　島田三郎

私は何故此の樣な題を掲げたかと申せば現代種々の問題がある中に、東洋にも西洋にも基督教は一番高い教を有ち、愛の道も之に依つて開けると申して居るにも拘らず、現代に於ては殆んど愛の道が亡ぶかと思はれる程、基督教が微力であるやうに思ふからである。

慈惠の事業や赤十字社の働が益々盛んになり。社會の進歩につれて、人が人を愛するの道が種々に出來て、世は平和を見るに至り、それを維持する爲めに、遂に萬國平和會議が立ち、一時は基督教の反射とまで人々が思ふた。即ち其平和思想は三方面に表はれて居る。第一、それを考究する學者。第二、實行せんとする立法家即ち政治家。又第三には教會に於て實地に表はし度といふ者。その中にあつた一二の例を申せば露國にブロッホといふ銀行家で、ポーランドの領分に生れた人がある。其人の著書、たしか「現代の武器と現代の戰爭」の中に、多くの人命を傷け殺す武器が減じて怖ろしき戰といふものの止む事を希望して書いてある。是により露國に於て平和會議を見た、次にイギリス人でノルマンアンゼルといふ人が著はした本に、甲の國に騷動が起れば乙の國に大迷惑となり、乙に起れば丙に迷惑をかける如き大仕掛は、實に迷の一つであると書いてある。それは各國語に譯され日本にても安部磯雄君が飜譯して博文館から發行した。私は明治四十四年頃アメリカの西海岸諸所を歩いて居た時「グレートイルージ

ヨン」を是非讀む樣にと勸められた。教會の人々も皆此書物の出たことを大いに喜び、最早大戰爭はないと迄申して居た。或國では互に武器の力が平均して居れば、戰爭などは起らぬと思ふて居た。然るにこれは世間の考で誰も豫言の出來ぬ思ひがけない戰爭が一昨年突發した。

人は誰しも幸福を得たいものであつて、幸福は人に滿足を與へる爲である。然し人を殺して滿足を得るであらうか。家庭の樂しみや會堂の集會は、前世紀より、更に今世紀に於て益々進んで居るに、今や世界に又となき、然も一番文明の進歩した西洋諸國に起つた事は怪しむべき、一大問題である。是を如何にすべきか、其戰爭の大きく且廣い事は人間生れて初めての事であると申しても過言ではない。戰爭に關係して居る人は六億。戰場に出た者は二千萬人である。ナポレオンの戰爭は大きいといふけれど、今の戰爭に比して十分の一にも足らない位である。アレキサンダーの戰爭、又ゲンヂスカンの西洋侵入等も、今日の如き幅は廣くなく。昔は東にあれば東で終り、西にあれば西で終つたものである。其の性質を見るに元來は血潮に荒れた爭であつたが、今日は三大陸に跨つて、空を飛び、水を泳ぐ空中戰や水中戰である。其の用ふる武器は科學の力を應用し、毒瓦斯等人智のあらん限りの武器を用ひ、人類記錄破りの働をなして居るのは實に驚くべき事である。何の原因で戰と文明は相伴ふものであらうか。現二十世紀に於て野蠻時代に於ても未だ嘗て無い所の人殺をするのは文明に齟齬して居るではないか。是等は皆造化の力に代る程の發見發明あると誇る人間の自負心である。幾千萬里の外まで飛び、月星を反射して取る等實に現代程智力の發達科學の進歩はない土地は歐洲諸國に於て殊に廢物を利用して重寶物になす業は、各國共長所はあるけれど、何と申しても獨逸は第一である。かく人智極度に發達し學問いやが上に進むことも、是で人間の幸福を得られるであらうか。我は彼を助け彼は我を助く。我の喜ひを彼

も喜ぶ念。親の美くしき情が、家庭、國家、人類の中に充ちてこそ、人類に幸を與へるのであつて、爭ひはどうしても愛の反對である。却つて學問智識の力により多くの人間を苦しめる。即ち强きは弱きを抑へ、怜悧は痴鈍を壓する事は事實に見て證明する事が出來る。歐洲人に基督敎の感化かないとは云へないが、彼等の心中に眞の根を据えず、新發見新發明が一時宗敎を無視する傾向があつた。前代未聞の新發見の爲、人間が奢り慢り此より滿足を得んとした。是遂に神を無視し、天を敬はぬ樣になるのである。是等は彼の創世紀の洪水に類似して居ると思ふ。彼の洪水後如何なる事を企てたかといふに、バベルの塔を建て人間の智慧人間の働を以て天の力に代へんとしたが、一は禍、一は失敗を招いた。即ち蒼天を摩する程の塔を建てたのも、洪水の時に逃げ昇る爲、又高き所に集りて四方を見渡し共に榮光を見んとした。然るに互に衝突を來たし言語通ぜず、皆ばら〳〵に別れてしまつた。

昔から英雄は屢々世界統一策を講じた。彼のルイ十四世の如きも世界統一とまでとは行かないが、印度及亞米利加方面迄も自分の領分にしたいと欲して戰を起した。ナポレオンも佛國を中心として歐洲を統一せんとしたが、自分にも亦他國にも大なる禍を釀した。即ち彼の氣力、彼の智識、彼の活動が己を滅ぼし、人類の上に慘憺たる運命を齎したのである。要するに己れの力に任じ世界に誤れる信仰を持ち、其威力を夢みた禍である。故に如何なる民族にとつても、道に適つた明白なる法則は、基督の仰せられた己れに爲されん事を人に爲す事である。即ち人を愛するは我を愛するので、人を尊敬する念は我を敬するのである。孔子も「己れの欲せざるところ人に施す勿れ」といふのも是れであつて、如何なる人も一點を加へて是を變へる事が出來ない。これ眞に神の念を人間に染浸する所以である。神は人間に智慧を與へ給ふた。然るに神に對する本源を忘れて慢ぶるならば幸福なき事は現在の戰爭を見て明白で

ある。幸に日本は一時兵を出した事があつたが、此大渦に巻き入れられないのは、天に感謝すべきであつて、心より神を愛し、心より神を信ずべき時である。即ち基督が如何なる言葉、如何なる行を以て教へ給ひしかを見るに、最もよき機會である。又大なる速度を以て進み、新たなる眼を以て基督教を見るよき機會である。孔子教を實際的に見て大いに感化を得て居るのは日本である。支那にても親を失ふ時泣男を雇ふ如き形式を殘して居るに、日本は少なくとも其の單純なる孔子教を見て倫理として居る。基督教に對する日本の地位もさう見られるのである。羅馬以後の歐洲諸國は事物の發達と共に、信仰箇條の上にも種々新らしき事を起し、多くの階段を通つた。然るに日本は束縛なく自然の眼を有つて聖書を見、それを信じて居るのである。日本人が單純な意見を抱けるのも、歴史の束縛がないからで、孔子教に對する地位は亦基督教にも見られるといふ私の意見で、又先輩の中にも同意見である。

要するに宗教は學問の結晶でなく、溫順な心を以て見ては、智者も無智者も同じに基督教を了解されるのである。ノアの大洪水、バベルの塔或は現今の大戰爭の如く、人智に誇つては大失敗である。故に我等日本國民たるもの、いよ／＼正道を踏み、人道を高きに置く樣に努むべきである（講演大意文責在記者）

ヴヰットリア・コロンナ

妻として――ペスカラ侯爵夫人
ミケル・アンゼロの友として――伊太利の女詩人

林　靜太

一

ヴヰットリア・コロンナは、イタリーの畫伯にして彫刻家、建築家、陸軍技師、又詩人を兼ねたる文藝復興期の頂點の天才なる、かのミケル・アンゼロの無

二の友であつた。而して此峻嚴なる畫伯は、彼の塑像に於ける作品の名聲の不朽不滅なるにも劣らざる其短詩に於て、此窈窕たる淑女に、熱情と愛とをば捧げたのであつた。又彼女が彼に與へたところの人生に於ける理想は大であり、大美術家の夢想したるが如き婦人として、彼女には何等の瑕瑾をも見出し得なかつた。而して私か取捨に迷ふのは、彼女が妻として寡婦としてあつた其間が、共に等しく其詩的鼓吹の源泉であつたが爲に、彼女を以て完全なる妻として記すべき歟、或は完全なる友として語るべき乎と云ふの一事である。然るに、彼女の夫たりし人は其愛情を受くるの價値が無かつた。即ち私は嘗て彼女の高尙な精神が、其夫を感化した如何なる痕迹をだも發見し得ないのである。が併し友として彼女は彼女の文名の嘖々たると相並んで畫の名手として千古に卓越したる、此一畫伯に慰藉と歡喜とを與へた。されば寧ろ私の心裡に殘るのは、其男子の精神と彼女の才との相交錯した、一男子の友としての彼女である。斯して彼女は寂寥なる天才の人にして斷腸の思ひをなし又夢寐に忘るゝことなき愛國者たるミケル・アンゼロを觀る人々の心の裡に殘らねばならないのである。彼に取つて、世は配流の場所たるに過ぎなかつた。從つて其生涯に此膏沃の地の必要なるは言ふを俟たない。雖然。彼女の生涯を服從によつて適應せしめなかつたならば、又彼女が全き歡樂の夢に交ふるに、詩人のなすが如く悲哀のうちに棲息して居なかつたならば、或はミケル・アンゼロに對してあのやうでなかつたかも知れない。されば妻としての彼女に就いて述べることも必要である即ち彼女が不朽の友誼の冠冕は、妻としての彼女―ペスカラ侯爵夫人―と、寡婦としての彼女―ミケル・アンゼロの友としてのイタリーの女詩人―とを含ましめなかつたならば、完全とは云ふことが出來ないから。

　彼女は文藝復興時代に屬して居た、歷史を閱するに、當時は奸詐、虐殺、掠奪等頻々として傳はり、

人間精神的の美は曖氣にも見出し得ない、所謂精神界墮落の時季に逢遭して居たのである。罪惡不德は何時底止するとも見えず、其社會的道德的の雰圍氣は、惡魔の傳染病毒に侵されて居たのであつた。然れども其反對反比例に其機智と其智的光彩と、其文雅なる儀容とは、洵に感嘆に價ひし模範とするに足るものがあつた。ヴヰットリア・コロンナを論ずるに當つては、少しく當時社會の風物淒然たる狀態に就いても、亦筆を執るの必要がある。乃ち其處には、道德的及精神的の頽廢墮落こそ、人生上乘のものなりと迄に主張されて居たのである。而も此時に際して其周圍の罪惡に拮抗して起つた豪邁い士も無いではなかつた。サヴオナロラ『譯者曰、イタリーの說敎者にして改革家、』此人に就いては特別の研究も面白からう。（一四五二―九八）』の如き其種の一人であつた。實に恐怖慘然たる此國土に於て、彼が秋霜烈日の如き純潔なる精神は惡魔に對して照り輝いた。其頃輝かしく時を得顏に勝ち誇れる惡德の渦中に投ぜられたるイタリーを見るに就け、彼は正義の反抗の下に大いに盡すところがあつたが、又其爲殆んど氣も狂ふ許りであつた。斯く智的發達の駸々乎として撓みなく、顧つて道德的墮落の底止することなきの時、ネープルスの一城寨、マリノに呱々の聲を擧げしぞ、實にヴヰットリア・コロンナであつた。

香櫞、香橙の繁れる城寨の下、アルバノの風光明媚なる湖水は、聽てカムパグナに擴つて居る。コロンナ家は非常に富有であつた。即ち城を築き砦を構へ、廣漠たる采邑地域を領して居たが、中にもマリノは群城を拔いて其風景、繪畫にも見るべき絕佳にして幽邃の地であつた。

ヴヰットリアの父をファブリッジオ・コロンナと云ひ、母をアグネス・デイ・モンチフエルトと稱へた。斯して彼女の血管にはイタリーに於ける最も貴族的の血潮が流れて居たのである。ファブリッジオは富める軍人であつて、其當時の總ゆる貴族の如く、最上の直附者には其劍も售るの人であつた。彼には愛

國心等と云ふものは薬にしたくも無い。何となるに其頃未だ近世の愛國心は生れて居なかつたから、即ち其根底には中世の種々なる詐術を藏して居たのである。彼は信じて居た、最も高尚なる職業は軍人のそれであると、而して最も勇敢なる將軍として、又當代唯一の熟練なる指揮官として名聲が有つた。彼は生命を賭して掛つた主義にさへも極めて無頓着で要するに此辯護士は時宜によつては正邪をも顚倒する。

千四百九十年にヴヰットリアは生れた。是れ實にクリストフアー●コランバスがアメリカに上陸し、即ち新世界を發見した二年前、又此年かの『壯大王』の綽名ある、當時惡徳の代表的天才とされし、ローレンゾ●デ●メヂシの逝いた年である。此等二個の事件—アメリカ發見とローレンゾの易簀—は全世界に影響すべき重大事件であつた。次にフランス王チャールス八世が、千四百九十五年二月二十二日王位を請求せんが爲、ネープルスに入り來つたのは、實にヴヰットリア五歳の時であつた。王は現君主を以て不正の系統より出づるものとなし、吾、チャールス八世こそ母の眞血統を引ける眞正なる嫡嗣なりと宣言した。フアブリッジオ●コロンナの味方したのはフランス王である。爲に暫く其戰亂を避けしむべく、美はしきイッシア島の城妃たるフランコヴヰラ公爵夫人の許に、少さいヴヰットリアは送られた。

當初はチャールス八世の爲に其身を獻げようと迄に誓約したフアブリッジオは、其後不意に旗幟を變じてネープルス王に隨從した。王は歡んで彼の一軍を迎へ、猶末長くコロンナ一族の忠誠を己に歸せしめんが爲、故ペスカラ侯爵の遺兒にフアブリッジオの娘ヴヰットリアを娶すことを提議した。此少年、フランセスコ●ダヴアロスこそ、其花嫁より長ずることわづかに一歳、如斯にして男と女との一生に取つての最も重大な歩みが既に業に未だ遊戲に餘念なき幼兒の上に取り定められた。此事件が如何にヴヰットリアの存在を着色するに至るかは、此叙述の

進むと共に了解し得らるべく、未だにそは不貞操の人生に織り込まるゝの時毎に、忠實なる愛情の模範として標本として示さるゝ。

イッシアの島、常に霧立ち罩めて森林は延びて岸邊に及び、大なる城砦高く此間に聳立す、是れヴヰットリアが幼年時代の家となつた。フランコヴヰラ公爵夫人コンスタンザ・ダヴアロスは、ヴヰットリアと許嫁の約束ある少年フランセスコの姉君であつた。夫人は文藝復興時代に於ける代表的婦人として其名海外に喧傳され、其精神の高尚なる普通の婦人に越へたる勇氣とは、能く新文藝の保護者を以て許されて居た。加ふるにイッシア島の終身城妃として、殊に重きをなすところがあつた。されば城内は文學の中心點となつた、卽ち當時の偉觀であつたかのマダム・ド・ランブウヰーエの『サロンブレウ』よりも却つて其名が高かつた。當時著名の男子有名なる淑女は夫人の許に走せ集まつた。四面環海、地中海の濤々たる波間に漂ふ一小島嶼イッシアは森を以て周圍を繞らしたる其中の美はしい花園にあつて、主客共に快活にして滋味ある談話に時の移るを知らなかつた。不朽の名聲有るトークエートー(譯者曰、イタリーの有名なる詩人一五四四—九五)の父バーナード・タッソー(譯者曰、同じくイタリー詩人一四九三—一五六九)は、自作の詩篇を朗誦した、アリオスト(譯者曰、イタリーの大詩人一四七四—一五三三)も亦其處にあつた。其他文に於て武に於て總て有名る人々である。世は刈菰と亂れ戰亂絶ゆる時無く、慘々たる國家の興廢一起一伏寸時も休み無きの時に當り、劍戟の音叫喚の聲を餘所に、人間世にありて心神の事物こそ最先に稽ふべきものなりとなすところの、當時イタリーの先輩先覺者は競ふて、此若い輕快な、學識有る公爵夫人に敬意を拂つたのであつた。其中には貴族もあつた。皇帝チャールス五世の如きは夫人を以て王妃に迄擬した。夫人はまた自身一個の著者であつた。殊に世の不幸と勞働とに關する其著述は、今猶古圖書館裡に重寶され、記者とし

ての公爵夫人を思ばしむるものがあると云ふ。此る文化燦爛たり道義地に墮せるの時、此光彩陸離たる婦人によつて、如斯題目が取扱はれたと云ふことは實に珍異である。

此等議論の時常に傍を離れず、其話に耳傾けて居た無邪氣にして快活、眞に美はしい二人の小兒があつた。少年フランセスコはスペインの出であつたので、其想像も多くスペインの稗史の類によつては養はれて居た。彼は己が門閥を誇り、從つて其語る所他の國語を措いてスペイン語を以てしたと云ふ。其許嫁に話し掛けるのも亦此スペイン話であつた。如何に同じ年頃の少年少女は睦じかつたか、遊ぶにもフランセスコ、學ぶにもヴヰットリアと、全く番ひ離れぬ鴛鴦のそれのやう互に相愛したのである。亓は實に（フランスのサンピーレによつて描き出されたる）パウロとヴアーヂニアの牧歌的の趣ある挿話にも似たる幼少時のロマンスであつた。

鏘鏤めしが如き褐色の眼繁叩きつゝ此想像に富める少女は、姉君を中心の談話に耳傾けて居たが、如何にそれが彼女の稚心に響いたかは吾人も想見することが出來る。常に社會の不德惡行を熱罵し、僧侶の腐敗を攻擊し、聖ペテロの王座を占め居れる最高の僧（羅馬法王）にさへも痛罵を加へ、猶且フローレンスの民が神の如く敬へる人サヴオナロラの名に、彼女は夙くより親炙した。又彼女の聞くには、其時代の貴婦人等も、サヴオナロラの命令としては其寶玉や見事なる衣裳の類をも惜むなく『虚榮の犧牲』てふ名目の下に獻げたと云ふ程の勢力ある傑僧であつた。彼は實に文藝復興時代の頽廢墮落せる道德を挽回し廓淸せしむべき明星とも云ふべき人であつた。然るに斯く勢力ある名僧も、其預言の天資失せたりと憤怒せる人民によつて悲慘の最後に問はれ焚刑に處せられたのであつた。少女は此等の悲慘なる物語を聞いて血を吐くの思ひをなした。遮莫彼女晩年に及んでは、サヴオナロラの如く、內部より羅馬敎會の改革に一身を献げ、徒勞乍らにも神聖な

る教會をして聖なる器たらしめんと盡力したのであつた。此二人の小兒は又此等の集りで、榮譽とは何ぞ、熱信とは何ぞ、軍事談等をも耳にしたに違ひない。又マキヤヴエリー（譯者曰、イタリーの政事家にして有名なる君王論の著者一四六九―一五二七。權謀家、術策家をマキヤヴエリアンと云ふに由つても、彼の一面を窺知し得られる）の主義が當代思潮に與へし影響傭兵使用に對する反對論、其他如何に彼が、其劍を售ることによつて富を作つたところの貴族に就いて、觀ずる所があつたかと云ふことにも一段と耳傾けたに相違ない。（つゞく）

關西地方巡回記

河井道子

先頃より我女子青年會中央委員は地方に散在せる委員、會友、同情者、又は支部の人々より訪問の爲め幹事を派遣せよとの請求を受け其責を果さんとの計畫なりしも幹事に餘暇なくして其機會を得る能はざりしが十月の例會に於て愈々是を實行せん事に可決せしを以て私は其任に當り本部と支部との關係を一層親密ならしめんが爲め又傳道の援助をも兼ねて關西地方を巡回する事とはなりぬ。

十一月十一日午前八時の急行列車にて雨中東京驛を出發す。蓋し名古屋金城女學校主催の大典紀念講演會に招待せられたるが爲めなり。午後四時名古屋着、停車場にて、同校市村先生始め數名の出迎を受け直に新築されたる金城女學校に入る、暫し旅の疲れを休めたる後會場に赴く、此日の講演者としては同じく東京より女子高等師範學校の安井哲子先生と「婦人の友」の羽仁とも子女史と私との三名なり。

市村敎頭は時間の正確に就きては有名なる方とは聞及び居りしが、實際開會は七時と云ふに一分一秒の遲速もなく會場なる縣會議事堂の講壇に上り、開會の趣意を述べられしには敬服したり。婦人を辯士としての斯る公會は此會を以て嚆矢とすと聞けど

聽衆の靜肅にして、若き男女が多數來聽せるも何一つ騒々しき事無く謹聽の態度を三時間も繼續したるは我々講演者に取りては感謝の至りなりき、翌朝の新聞紙上に聽衆千五百人とありしを見るも盛會なりしを知るべし。翌日曜朝は以前東京富士見町教會の副牧師たりし樋田氏の教會にて禮拜す、禮拜後は同氏宅にて新夫人の饗應を受け廣々たる庭園を逍遙し日當り好き部屋にて東京話に餘念なかりき。

午後二時より再び金城女學校にて「女子青年會とは何ぞや」との題にて、講演をなし引續き青年會員の祈禱會に移る、教師生徒共々の出席にて引締りたる熱心なる集會なりき。此日萬國女子青年會の祈禱週の最初の日なれば斯くの如く諸氏と共に此日を守るの幸福を思ひて感謝す。同校は歴史は古けれど名古屋は佛教地なる上、女子教育不振の土地柄とて非常なる困難の相重なりて一時は衰微の世評さへありしが、近來非常なる發展を來し新築の校舍寄宿舍美しく、日當はよく閑靜なる市街を控へ交通に便に、然も教師は(特に日本の教師)は學識、徳行、信仰共に範たる方々にて、二百名に餘る子女には過分と思はるゝ程の學校となり益々評判宜しとは慶賀すべき事にこそ。是は特に市村教頭に負ふ處多しとぞ。其夜は市街の講義所にて傳道說教の援助を爲す。田口淸子氏は女學校の舍監教師を兼ね傳道に多大の盡力を爲し特に六つか敷土地に置かれたる此講義所を補佐せん爲め日曜學校及諸種の集會に多大の盡力を爲されつゝあり。此夜二人の青年の決心されしは此上なき感謝すべき事にして彼等の前途に神の惠の豐かならん事を祈りて止まず。

翌十三日未明名古屋發、夜十一時廣島着、靜けき夜の川邊を月光を浴びつゝ馳せ行く心地よさ。其夜は廣島女學校ミスゲエーンスの部屋にて熟睡眞夜中と思はるゝ頃俄にピヤノ、オルガンの音の聞ゆるに何事ならんと飛び起きれば是既に十四日午前六時に近し、後にて聞けば此學校にての音樂科は朝食以前に練習をなし夕食後一定の時間に於て再び練習を爲

す定なりと、斯く勉勵なればこそ生徒諸子が斯道に堪能なるも道理なれ、此校名は以前より屢々聞きし事ありしかど實際を目擊して其規模の壯大なる敎室の整頓せる、職員卓絶して生徒の規律正しき等、全ての點に於て想像より遙に優勝なるに驚きたり。六七年以前此學校より代表されて二三回夏期修養會に出席されたる市川縫子姉を記臆さるゝ會友もあるなるべし。何時も快活に然かも機敏に立働き若き姉妹方を奬勵せられしが同姉は其後鹽見夫人となられしも結婚後僅か數ケ月にして郎君の永眠されしかば其後三ケ年を英國に送られ今は米國紐育市コロンビヤ大學附屬媬姆科に修學中にて本誌にも同姉の通信を屢々揭げたり。斯の如き關係上此廣島女學校を訪問するの愉快は知る人ぞ知る。此校には幼稚園、小學校、女學校、媬姆師範科の四科ありて全校の人數六百名に上る。關西に於て媬姆傳習所と云へば此校と神戶なる頌榮幼稚園及び九州の活水女學校とを擧ぐるなり。其中にも此校は特に海外に於ても其名を知る者多し。そは此幼稚園の創立者は自己の實驗談を「勳章の婦人」なる書名にて出版し一時米國讀書界の紙價を高からしめたるを以てなり。聞くならく子供敎育の大家久留島先生は此幼稚園にて自己の幼稚園の暗示を得たりと。

十四日午後市公會堂にて敎會の聯合婦人會あり此土地には珍しき程の盛會なりしとの事なり。廣島縣下は安藝門徒とて一般に佛敎盛にして基督敎傳道は困難多く敎會も敎役者、信徒協力一致するにあらざれば福音の傳播は容易ならず、英學塾出身者鎌田ことぢ氏は同市山中高等女學校に敎鞭を執らるゝが久々の面會に興味ある經驗談中兎角基督敎信徒の立場として學校にて働く事の困難を述べしが同情に堪へず。閉會後別室に於て役員婦人方と共に座談中、一人の上品なる婦人靜々と近寄り如何にも遠慮勝に、「失禮で御座いますが貴女は昔小さい時に函館の學校に居られた河井おみちさんでは御座いませぬか、若し間違ひましたら御免下さい」と云はるゝ儘、同

人なりと答へしに婦人は聲を張上げ「まあお懐しい事、私は貴女と一所に居た小山貞で御座いますよ、今は木田と申して居りますが、あなたは其頃お河童さんで……」と餘りの事に暫時は先方の顔を凝視せしに、成程自分は昔遺愛女學校にて二ケ月間寄宿せし事あり、當時同室の御姉上様とて好く世話し下されし人がお貞様と計り、氏姓さへ忘れ果て居りしが「まああの時は色々御世話になりまして有難う御座いました」とそれより昔の述懐談に時の移るも知らず、他の婦人方は手持無沙汰の様なりき。斯く舊友には何時何處に遭遇するやも知れず。世は廣き様にて狹きものなりとは誠に事實なり。

十五日、午前廣島女學校々堂にて一時間の講話を許され其後直に盲啞學校を訪問す、斯校は近年の創立にして未だ校舍狹く生徒も少數なれど將來有望なり。爰にて講話を依頼されしを以て西洋にて有名なる盲學者、盲詩人の話をなし、終りに讃美歌第百八十番「しろがねのひものたゆる日はありなん」と同伴者二名と共に歌ひ、此讃美歌は失明せし婦人の作なるを語り、其他同人の作が世界の基督信徒中に賞讃せる事を述べ愉快に別を告ぐ、出校の際一女教師は目に涙を湛へ「眞實に今日の様なお話を啞生にも聞かせて遣り度く思ひましたが如何にも殘念で御座いました」との挨拶は、此身に取り此上なき讃辭なりき。午後再び廣島女學校講堂にて公衆一般への傳道講話を爲し、夜は寄宿舍に於て教師生徒一同と共に牛鍋の御馳走に與る。其味の結構なりし事到底東京の三河屋、常盤の及ぶ處にあらず。牛鍋輩よ廣島女學校寄宿舍に行き其秘訣を習ひ給へ。

十六日朝九時より學校の婢僕一同の集會にて感話をなす、廿人餘りなりしがこれ程熱心に同情を以て我が話に耳傾けし人々は他には非ざるべし。話最中にも「左様で御座います」とか「え、さうですか」とかの同意を示し、時の短かきをかこつも嬉し、其中の一僕は三年以前に安藤太郎先生の禁酒演説にて救はれ、以來は熱心なる信者として朋輩の間を導きつゝ

ありしとの事にて、斯る立派なる人物の隱れし處にありしを神に謝しぬ。

十一時の汽車にて吳市に向ふ途中の景色美はしき事鎌倉附近以上とも思はれたり。一時間餘にして吳市着。宣教師宅にて晝食を招待され、直に日本基督教會に於ける聯合婦人會に出席せり。同市は日本第一の軍港にして山を背にし海を控へ風景氣候二つながら備はる美市なり。然るに市民の宗教道德の觀念と云へば最も薄弱にして佛教は可成盛なりとはいへど人心を指導するに足らず、誘惑の場所は日と共に隆盛に趣き、市内電車の終點が遊廓地なりとの一事にても他は推せらるべし。從つて料理店、興行物の如き盛なれど、教育機關は萎微し、青年軍人を教化するに足る者皆無といふも過言ならず。然れども神は此地を愛し少數の義人を常に置き給へり。中にも十時菊子女史は以前女子學院に教鞭を執られし人なるが、大に感ずる處ありて傳道に從事して、吳市に軍人ホームなるものを創立されしは十年前の事なりそれより苦心慘憺至らざるなく、今日迄奮鬪の結果今は市街の閑靜なる處に門構の二階建一軒を借り受け、斷えず數名の軍人を宿泊させ、又彼等に必要なる學問を教授さるゝなり。人數多き時は十四五名も一時に宿泊し、女史自身の居間さへなき姿なりと。女史は此等青年の信仰心を高め、人格を磨かんが爲め夜は大卓を圍みて聖書の研究或は祈禱會をなし、暇ある時には英語、漢文、數學等何によらず教授さるゝと共に、又慈母の如くに食物衣服さへも特志にて世話さるゝ故、水兵等は何れも女史の德を慕ひ敬ふも當然なり。女史の今日迄此事業に就ては全く獨立にての經營なるは只敬服の外なし。我等は是非とも間接直接の同情を以て女史の事業の發展を充分に助力致したきものなり。

十日、午前中は人々の訪問を受け、午後は又講堂に於て再び米國に就ての講演會を開く、後聽衆者中の一男子より書簡を受く。其文面は彼が渡米に關しての困難、旅館其他の不親切不始末を訴へたるもの

なり。ミス・ケエーンスは私に再び廣島縣下に至郡部を遊歴して此問題に就き公衆を教育しては如何との事なりき。そは米國加州に在住する日本人は多く廣島縣下より趣けるものなるが故なり。夜に至り校内女子青年會役員、會員相集まり「如何にせば會の發展を圖り得べきやとの問題に就て協議する處ありたり。此校の女子青年會は高森先生保護にて今日あれども生徒會員全體は今後會の何たるかを會得して其責任を感じ活動されん事急務なり。

十八日、午前六時廿分旭の上ると共に廣島を出發正午岡山市に着。中村艶子(舊多賀)葛川清子氏等が停車場迄出迎はれて昔に變らぬ親しみにて相會するを得たるは嬉しかりき。中村氏の姉君なる神社氏宅にて晝食の饗應にあづかり、午後は其近傍なる日本基督教會にて共勵會主催の女學生會に臨席、師範學校、縣立女學校、山陽女學校の諸姉妹出席され、いとも盛會なりき。其夜は山陽高等女學校長上代淑子氏の懇切なる招待にて同校に一泊す。上代先生は早き頃より本會中央委員として盡力され居りながら相識の機なく今回が始めての面會にて、親しく本會の近狀を陳述して其の指導を仰ぎぬ。同氏は既に卅年に近く同校に奉職され今日の隆盛を來され又幾百人の姉妹方の敬愛の焦點たるの人、然も溫情に富み平民的の中にも尚威嚴を備へられ、教育家としての名聲は勿論、基督信者としての模範にして實に名實共に備はる欽慕すべき人格なり。先生の狹き書齋に一軸あり其面に「奉仕之樂是人生之至樂也」と墨痕美はしく書かれたり。是れ先生の一生の御精神なりと聞く。先生の訓育を受けらるゝ子弟等は世にも幸なる女子なるかな。

十九日、朝食前に上代先生に伴はれ寄宿舍を隔てて向側なる廣き校舍を見る。又校舍の隣に一寺あり之は先生獨立經營の裁縫學校にして高等女學校卒業後一二年間家事科修得の場所なりとぞ。寺の坊主は佛壇一切を纒めて其隣なる小さき家に移り本陣の方は上代先生の教場として貸與せるものなりとは面白

き事實ならずや。此等一覽後食卓に就き、急ぎ先生經營の日曜學校に出席、又此處は古き荒壁の見榮なき平屋なれど近き將來に新築さるゝものなりとか。之も上代先生多年苦心の獨立經營にて玆に於て自由に宗教々育を施さるゝものなり。今日基督教信者たる教育家中、官權又は世評を意とせず、正々堂々と基督教傳播の爲盡力せる者將幾何かある。上代先生の如きは砂礫中の寶玉といふも溢美の言には非らざるべし。日曜學校後伴はれて岡山組合教會に出席同教會は以前金森通倫先生の牧されし處なりしと聞き今昔の念に堪へず。午後は中村、陶山、葛山、上野、今井の英學塾出身諸氏に伴はれて公園を散步す。お互に一別以來の物語に餘念なく紅葉や菊の美を稱し鶴の巣に返るなどを見ては、身は宛然仙境に遊べるが如く日暮るゝ頃歸路に着く。夜は教會に於て傳道集會催され玆にも又青年の大多數なりしを見て嬉しく感じたり。陶山米子氏は津山より葛山氏は高梁よりわざ〳〵來たられしは此上なき歡迎と嬉しかりし。

廿日、午前八時岡山を發し正午姫路着。直に日の本女學校に行きて歡迎を受け、午後は講堂にて講演す。教會の婦人方の出席多數意外の盛會なりき。同校には最初より我女子青年會に同情を有し兩三度生徒數名を伴はれて夏期修養會に屢々出席せられし高田教師あり、又以前同校に教鞭を執られしミス、ラムゼーは目下北米シャトル市にて婦人ホームを經營し同胞姉妹等を指導さるゝ關係より、渡米に關する我女子青年會の事業には多大の同情を寄せられ何かと援助せらるゝなり。日沒後教師數名に伴はれて公園地を散步す。暮色中に白鷺城を望む、恰も繪畫中に彷徨するが如く「山の上の城はかくるゝ事を得ず」との主の御言葉何んとなく心に浮び我等の人格又事業は常に高きを目標とするこそ肝要なれと深く思ひぬ。日の本女學校は近年改築され日當り殊に宜しき學校にして建築物の内外清潔と優美とを兼備し、見る目にも又住む身にも快よき建物なり。庭園には珍

らしき灌木其處此處に植ゑ付られ、池、小山、燈籠などの排置古雅優美にして到底學校の庭園とは思はれず。近來宗教諸學校中其建築物等に注意し設備の整頓に意を用ゆるに至りたるは喜ばしき現象といふべきなり。

廿一日、朝七時四十五分よりの禮拜に出席卅分間の講話を許さる。其處より直に加古川に向ふ、十時に着。停車場には既に自働車の出迎ありて我を待つ此處より暫くにして多木有機子夫人を訪問す、同氏は井深花子先生より神戸女學院にて訓陶を受られ今は信者とし關西屈指の實業家の愛孃とし夫人として全ての善事に同情され援助さるゝ方なり。一昨年實業團一體の渡米の際御兩親にも其一行に加はり三ケ月間にて北米合衆國を遊歷されしとか、されば母君は米國の話に餘念なくお互に面白き經驗談に時の移るも知らず、午後は幼稚園にて婦人會を開く、土地狹ければ集會者少數なりしも、打ち解けたる家族的集會なりき。此幼稚園には青山女學院出身者なる渡邊みちよ姉主任として働かれ母姉の間に良感化を與へらるゝと聞き嬉しさに堪へず。それより神戸に向ひ午後八時着。女學院より數名の出迎を受け嬉しき中にも何故斯る多人數にて無駄時間を費さるゝやといふに「狂人入江三郎の出沒も計られざれば護衞の爲めの出迎なり」とて哄笑す。揃ひも揃ひし大女の濶歩には如何なる殺人狂も恐縮するなるべし。

廿二日、朝八時女子神學校に於て講話す。仙臺なる宮城女學校の出身者にて又函館遺愛女學校出身者たる藤田氏にも面會、滿腔の歡迎を受く。意外にも時間の餘裕を生じたれば久々振にて大阪濱寺なる荒木幸子夫人を訪問せんとて出立つ。折惡しく不在にて落膽する事限りなし。されどこは我が不注意より生じたる事にて前以て通知し置かざりしこそ不覺なれと誰を咎むる由もなく再び神戸に引返しぬ。夕食は神戸女學院にて青年會役員の招待にて日本の教師一同と共に饗應にあづかる。食卓上の會話は在米同胞婦人の事にして興味深きに時の移るも忘れ果て

膝の痛さに氣付けば二時間以上も語り續けなりしを知り、生徒諸姉の勉强時間も如何かと慮りて退席す。

廿二日、新嘗祭なり。朝九時より講堂に於て感謝祭擧行さる。講壇には「感謝」の文字鮮かに其廻りには果物、穀物、野菜等堆く積まれ、薔薇、コスモスなども配置せられて、色彩の配合を美ならしむ。自治會長岩瀨愛子氏開會の辭を述べられ、感謝祭の說明あり、次で奏樂あり講演會に移る。此日大阪ウヰルミナ女學校よりも多數に出席せられたれば會は一層賑ひたり。午後二時より親睦會開かれ無邪氣なる餘興數番あり。お話、音樂など各得意の腕を揮ふ。茶菓の饗應ありて充分なる歡を盡したる後四時散會實は此親睦會は女學院女子青年會の主催にて電話交換手四五拾名を招待せんとの計畫なりしも折惡しく出席都合惡しとの事に學校の關係者のみにて開きしものなる由。同夜七時鐘ケ淵紡績會社に行く。構內集會所は演戲場の如き構造にて、土間、棧敷、舞臺等に分かれ、集會には都合よろしき處なり。此夜の集會は女學院青年會の主催にして、役員七名同行せり。會長松平榮子氏立つて開會の辭を述べ役員一同讚美歌を唱ひ、次に米澤牧師の興味あるお話に次で藤田氏の獨唱あり。私は「金錢」といふ題にて講話す女工千三百人靜肅に端座し、興味ある場合には拍手喝采或は哄笑するなど却つて無邪氣にして面白し。女學院青年會の諸氏よ益盛なれ。神は諸氏等の活動を嘉し給はん。

廿四日、朝九時城のぶ子氏經營の婦人同情會を訪問。此會は東京女子青年會經營の「旅行者の友」に類似したる博愛會にして啻に旅行者に限らず、不幸なる同胞姉妹は之に來り城氏の指導の下に就職し、又信仰に入るなど同情すべき婦人の家庭なり。後再び鐘ケ淵紡績會社に至り工場長福原八郎氏の好意にて各所參觀、即ち食堂、炊事場、病院、學校、販賣部、集會所等なり。玆に働く工女の數實に六千人なり。構內の坪數は約五萬坪。其中に就職し住居する者子

女を合せて約四萬人なりと。福原氏は、女工取締養成所の必要を切に說かれ。今後女子青年會は玆に着眼せられては如何との勸告を受けたり。午後再び女學院に歸り敎員會議にて感話をなし、それより個人の訪問を受く。同夜十二時神戶發、德島に向ふ。

廿五日、細雨霏々たる中を午前七時卅分德島市に着。航路稍々荒れて汽船の動搖無理ならねど、乘客には快からず、折角の出迎人にも元氣好き挨拶さへなし得ずして宣敎師プレストン氏宅に着く。高橋久與、莊原秀子氏は登校以前なればとて、急ぎ波止場まで出迎はれたり。プール女學校出身者にして傳道に從事さるゝ數名の諸氏にも宣敎師三名と共に波止場まで出迎はれしは有難かりき。午前は室內に閉ぢ籠り疲を休めぬ。午後よりはインマヌエル敎會にて女子の爲めに集會を催す。大阪プール女學校敎師吉本淺子氏も同船にて來德せられたるが、共に此日と翌日の集會を應援せられたり。敎會は大きからねど來會者堂に滿ち、眞面目なりしこそ嬉しけれ。閉會後プ氏方にて德島縣立高等女學校の女敎師等と相會し、茶菓を喫して經驗談を交換し、宗敎と敎育の關係を語り合ひ、外は雨ながら內は暖爐の火暖かく、電燈の火さへ友情を暖たむるかと覺えて樂き團欒なりき。此等女敎師等の中には既に數人の信徒あり、又校長は熊本謙次郎先生の緣者の方とかにて、宗敎等に關しては廣き意見を抱かれ職員生徒等の信仰に就ては自由に任せらるゝとは、校長御自身より直接に聞き及びたる處なり。

廿六日、朝食後此家の慣例に從ひ朝の禮拜後、莊原氏の迎ひを受けて日本基督敎會禮拜に出席す。抑德島市は聖公會(英國派)日本基督敎會の二つありて兩派とも市內及市外近在に講義所を有し宣敎師、牧師、傳道師、傳道婦等熱心に働きつゝ、各所にて小兒の集會、婦人會、傳道集會等日々催さるゝとの事なれど同市は宗敎に關しては極めて冷淡にして基督敎の傳播又遲々たる恨あり。此日の禮拜說敎は饑えたる我靈性に取りて良糧なりき。午後滴翠閣にて婦人

大會開催。茲は公園の一部にして城山を後部に控へ老松古杉枝を交はして蜂須賀侯祖先の當時を忍ばしむ。吉本女史は熱誠を籠めて、基督教の眞隨を說かれ。私は信仰と其基礎との要を說く。會終りて有志者二三十名殘りて共に青年會の組織事業を協議す。

廿七日、空始めて晴れたれば吉本女史の大阪に歸るを送りて後プ氏と共に城山に上り全市を見渡す。德島市は人口七萬餘にして山水の美、中國のそれに劣らず、されど島國故にや住民の氣質稍古風にして進取の念に乏しとの評あり。午後再び教會にて集會を催す。列席者の同じかりしは有望なり、此程は米國宣教師ミスランプキン氏の許に一泊せり同宅には莊原ひで子氏寄宿して、爰より日々通勤せらるゝなり。高橋久與氏も共に泊りて、信仰上の座談に夜の更くるも知らず、終にラ氏に子供の如くに叱咤され無理にも就床せられしはおかし。

廿八日、朝九時より聖公會、日本基督教會の兩教會の傳道婦相集まり、今後は相共に友情を增し親睦の道を圖り協力一致して主の道の爲めに努力せんとの協議會を開く。集りたる人々は、大阪プール女學校、東京女子學院、横濱英和女學校等を代表せる姉妹方にして共に宗教的教育を受けられし方々なれば一入協同連結の實を擧ぐべき責任ある人々なり。將來此小さき會合が土臺となつて女子青年會の堅固に建設されん事を切望して止まざる所なり。それより縣立師範學校、高等女學校を訪ひ高橋、莊原氏等の組々を觀る。若き人々の既に教師たるを見て俄かに老ひたる心地す。午後は最後の集會とて「巖なるキリスト」と題し講話す。靈に滿たされたる好き會合なりき。夜はミス。ランプキン方に馳せ、最寄の集會を助く。老若男女相集り家族的の集會なりしかば、終りまで親しく相語りたきは切なる願なりしかど船の出帆に後るゝを恐れて中座したり。

廿九日、船大きくして波穩なりしかば、海上靜かにして航海樂なりき。午前七時卅分大阪着。林あき子氏の出迎を受けてプール女學校に行く。午前は訪

問者を受け午後は集會に出席す。大久保知事夫人、廣岡淺子夫人、ミス、トリストラム等三氏の主催にして在米婦人問題に付きての講演會なり。

ブリマー大學女子青年會

ブリマー大學　メリー、テチラー

私事未だ貴國に參りし事なく、唯地圖や繪等にて想像申上居候故遙か遠國の如くに感ぜられ候。然し左程遠方ならぬ樣に考へ度、繪によりて又曾て貴國を訪問致し候。友人の話によりて日本を實に美くしき國と知り他の國よりも先第一日本に參り度希望に御座候。

只今暇を得候間我が女子青年會の樣子御知らせ申上候。當青年會は普通に申す彼の女子青年會とは關係御座なく立派に獨立のブリマー大學基督教女子青年會に候。今週は當ブリマーに於てその六週年を祝ふ爲め五六人の講演者を聘し、金、土、日曜の夕方大集會を開く筈に候。當校の日曜禮拜は實に崇高と存じ候。毎日曜日朝此チャペルにて禮拜御座候へ共近隣の教會に參る者も有之候。又夕六時より夕拜を開き其司會者は常に生徒より選ばれ誠に打解けたるよき集に候。特に青葉繁れる庭内に於ては又特別に御座候。夕食後圖書室にて半時間讃美歌を歌ひ次に夜の集合に講堂へ集まり候。大抵は名高き方々の御說敎にて私共皆奮闘を促され申候。水曜日午後七時半より八時半迄傳道、聖書及社會事業研究の三組開かれ特に社會事業は當大學經濟科の一教授の下に研究され候。右終りて九時半より祈禱會を催し可成多數の出席を祈り居候。それと申すも該會は形式に片寄らず矢張生徒の司會にて折々の問題を協議致し誠に興味深く又有益なる會に御座候。是等の集會部委員の外各部に多くの委員ありて多方面に活動致し居り候。例へば職業部委員は僅かにてもお金を得たき人に小さな仕事を見付けて與へる事或は古着、古靴、古雜誌の廢物利用委員等ありて夫々熱心に働き居り

候。目下他の委員より數倍多忙なるは赤十字部委員に御座候。同委員は火曜日の夕方を「仕事日」と申し誰をも歡迎して一所に集り特に窮乏の國々へ送る繃帶及吊腕帶を造り居り候。又毎秋新入生を迎へ御世話致す委員も御座候。是は中々骨の折れる事に候へ共同委員熱心に大いに力を盡くし居候故勉學のため遠く離れて見知らぬ外人の中に交々若き女子がしかも僅かの間に學校にも生徒にも懷づき皆親しき友達となつて淋しき感じを露計りも思はせぬ事は實に驚くべき働に御座候。其他諸種の委員御座候へ共いづれ又時を得て運動部及「自治制會」に就き申上ぐべく候。

飾らぬ愛らしき告白

左に掲ぐるは廣島女學校の小さき姉妹方より受けし音信なれど、飾らぬ告白、愛らしき抱負、眞心よりの同情湧出して紙面に溢れ居れば只自分一人にて味はんは惜しく、玆に其の儘を掲載して讀者の高覧を請ひ、併せて廣島女學校先生及生徒諸氏の厚意と同情とを感謝することゝはなしぬ。

河井道子誌

今夜は紙屋町の敎會にまゐりまして御話をきゝました故夜の二年生の例會は御座いません今丁度七時十分過ぎです、此日曜の夜を先生に御手紙差上げることに致しました、急に二年生の聖書の組の者が思ひ立つて認しますのですから鉛筆で失禮致します、御座にならんで居る順で御座います。(二年生の一人)

兩三日間を通じて御話下さいました骨あり肉あるお物語如何に私共弱き心を勵ましたて御座いませう。何卒此後も時にふれ折にふれて良き音信を下さいませ、私は南寮の食堂でお目にかゝつた小さな一人で先生の打解け下さつた御辭は今尚耳に殘つて居ります。(松田つるよ)

先生私は誠に御恥しい事で御座いますが今迄何の先生から御話を伺ひましも何時でも面倒臭いと思つて居りましたし、眞實に此度先生の御話を伺ひまして尚一層神樣の惠にあづかり度いと感じました、先生の御話は何日でも續けて聞き度う御座います、私は益々信仰に進み度いと思ひます。(二年生、尾上富子)

私は今まで色々の好きお話を聞きましたけれど何時も眠つて計り居りましたが先生の御言葉丈は少しも眠らずに樂しく聞く事が出來ました、又先生の御言葉は好く味はう事が出來ました。(二年生、桑原花子)

先生私は何時も、神樣に背いて居りましたが追々善良な者になり度いと存じます、何卒度々廣島女學校に來て私共にお話をして下さい御待ちして居ります。（一年生、杉本三千枝）

私は以前から河井先生といふ御名を聞いて居りましたので早くいらしつて私共に御話をして下さればいゝと待ちにまつて居りましたので眞實に御話をして下さつた時には大變に嬉しく思ひました、私は何時も〳〵御話を聞きながら學課を習ひ度いと感じました又何時か河井先生が廣島女學校にいらしつて又神樣の御話を聞くのを今より神に祈つて居ります。（一年生、山下美喜子）

前からゲーンス先生より河井先生の御出でになる事を聞いて居りましたが此間愈々いらしつて眞實に嬉しう御座いました以前から信者にならうと思つて居りましたが好機會がないものですから今日迄延ばして居りましたが先生の此度の御話を聞いて愈々決心致しました早く信者になつて私も先生の樣に世の中の人の爲めに働かうと存じます、私の樣な者がとても世の中の人の爲めに働く事は出來ませんけれど少しづゝ積んで行かうと思ひます。（辰川みさを）

先生の御來校は以前より承つて居りました、御恥かしう御座いますが私は日曜日の御說敎の時でも居睡をした事も御座いましたが先生の御話は心より承りました又御出てになつて御話をして下さる樣に御願ひ致します早く信者になり度いと思ひます。（恩田ハルエ）

私は眞實に今度先生の御話を伺ひまして心から感じました私は今迄何度も〳〵神樣の道に就いて學びましたが眞實に心から感じたのは先生の御話であります、私は今年の三月に漸く信者になつたものでまたびん〳〵ですが此度先生の御話を聞いて愈々神樣の道に進む事を心から決心致しました、私はもつと〳〵勉勵して神樣の爲めに働き度いと思ひます、そして國の爲、父母、先生に對して今迄受けた御恩の萬分の一でも報ひ度いと思ひます。そして尙私は今から益々信仰の生涯を送り度いと決心して居ります。（內藤操）

私は今迄度々諸先生から有益な御話を聞きましたが今度先生から承りました「千代の礎」には大層感じました何か出來ますのでも礎がなければ何事も出來ません私共は之れから良い事を積んで立派な女子青年會員の一人とならうと思ひます。（大竹ときわ）

私は今度先生から有益なお話を聞きまして感じた事が多く御座います、私は未だ信者になつては居りませんけれども先生のお話を伺ひましてから一日も早く信者になつて立派な女子青年會員となりたいと思ひます。（川成アヤノ）

私は神樣の學校に居りましても日曜日や說敎などに熱心が起りませんでしたが是からは人の爲によく働く青年會の一人にならうと望んで居ります私は元來佛敎が好きだと思ひましたが是からは基督敎の神樣を信仰致したいと心の中に深く〳〵考へました。（池田綾子）

私は今日迄何の先生の御話を聞いても敬神の心は起りませんでしたが先日先生の御話を聞きまして敬神の心が起りましたこれから後はこの心を永く〳〵續け樣と思ひます。（赤木茂枝）

私は人一倍罪深い身で御座いました。神樣の前に恥しいと思ひながら矢張每日々々同じ罪を繰返して居りました、先生の御話を伺ひましてより夜床に入る時いつも神樣の前に恥しい事をしたと泣きます私は先々より求道者の一人となりました、一日も早く神樣の子供となりたいと思ひます、先生何卒お體を御大切に遊ばして再び私共の前に有益な御話を聞かせて下さいませそしてこの後も私の足りない所を御導き下さいませ（佃梅子）

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑

◎歐米有名賣藥各種

◎舶來化粧品各種

◎醫療器械各種

◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

度々色々のお話を聞きましたが何時も坐睡などして少しも御話などは覺えて居りませんでした、先生のお話を聞いてから眞實に神を信じ樣と決心致しました、私も出來る事なら先生の樣になりたいと思ひます。（お姓名がありません）

私共は有益なお話を聞きましてから其晩はつく〴〵と考へまして眞個に良い話を聞いたと思ひまして自分一人で喜びました。（南原君枝）

私は此の間靈の糧を頂きました、今迄はいくら御話を聞かうとしても熱心に聞く事が出來ませんでした此度は心に滲んで今日は聖書を學びますにも充分に學ぶ事が出來ました私は今から熱心に聖書を學ばうと存じます。（増田ふみ子）

先生の御名は前から承はつて居りましたが今度始めてお目に懸りました、前から御話は承りたいと思つて居りました今度お目にかゝれたので永い間の望みが叶つた樣に思ひますこれから聖書の組にも出て勉强致しませう。（石川龍子）

先生の御話を聞いて神を信仰したいと思ひましたもう一度先生と南寮で食事仕度いと思ひます。（大谷優奇子）

ヨセフが若し逃れたならば

（前々號のつゞき）

一會員譯

終イスラエルも、エジプトも、ギリシヤも、羅馬も破つてしまつたので、今度は火神崇拜者とカナン人とが互に爭ひ初めました。しかし其話をする事は許して下さい。もう其の當時は實に話す價値もなければ聞く價値も無い事ばかりでした。

毒殺される者、餓死する者、燒死ぬ者、打たれる者逃走する者、十字架につけられる者で充ちて居りました。私は恐ろしい事件を發見しましたが、我々人間の想像や言語や繪書や文字に依つては夫れを現すことも出來ない樣な恐しい事であります。私は皆樣の前に是れを云ひ得ない事を寧ろ神樣に感謝致します。斯んな時代には盛んに淫慾が行はれ、其のために起る處の疫病は、丁度火が枯木に燃え移る樣な勢

で領内に廣がりました。子の生れる事は非常に少くなりましたが、たまに生れると半分死んだ樣な者ばかりでありました。それで成長した者等でも教育などは更らに受けず、丸で禽獸の樣になつて、私は彼等が一人前に姓名を持つて居る事は人間の神聖を汚す事であると思ひました。斯ふ云ふ風でありましたけれども、此の數百年間に、色々な悪い事も段々と少くなりました。

私が畑を見ましたら、皆森林や叢になつて、カルセージやオンやシトン等の町は燒き盡されて居りました。それに美術や學問を起す人がなかつたものですから、其の次の百年はもつと恐しく過ぎ去りました。世界の生物は初め雫の樣に流れて居りましたが、終に黒い大きい水滴や、赤い血と共に騒しい音を立てて流れ出しました。少しの男子と女子とが殘つて居りましたが、動物の樣に荒れ狂ひ、丁度昔のカインの時代の樣に兄弟も喧嘩し出しました。之は自力の智恵のみに依つて神樣に頼らなかつたために起つた當然の事でした。私はこんな話は止めませう。もうお尋ね下さいますな、いやお尋ねになりましても私は答へますまい。それから又二世紀は過ぎ去りました。少しの暴民が殘つて居るばかりで最後の子孫が出て再び三十年間闘かひましたが、最後に不思議にも殘つて居た人間は皆二つに分れ、尚ほ軍旗を持ち軍服を着て居ました。其の一方は四人で他方は九人でしたが、兩方で出會した時、彼等は以前に私があのヨセフを助けて再び其の父の元に歸へしてやつた其のシリヤの土地で戰ひました。又彼等は其所から餘り遠くないセブシイトと云ふ亡びかゝた町に來ました。此の町はカナン人民中の一種族の守つて居た要塞のある町で私は此の町が燒ける時の煙を見ましたが、是がカナン民族の最後の町であつたのです。

丁度その町の近くに空地があつておかしな事に私は其處に怪しげな人間の頭蓋骨の樣な岩が其の薄暗い乾いた土地から現れて居たのを憶えて居ります。

其の岩のまはりを四月の陰氣な日に四人と九人ののが、彼方此方に隱れ乍ら戰ひました。一人が倒れますと片方の組の二人がそれを殺さうと其上に上りました。忽ち荒々しい聲で倒れた者の方の者が三四人で其の二人の頭に楯を投げつけて飛び上りましたが、私は一人の者が其の頭の上で斧をふり廻して居るのを見ました。その鐵が光つたのでもありませうか、ピカッと一光り私の目を眩惑しました。

私が目を開けた時には其の動物の樣な人達はガルバリー山の恐しい岩の附近へ打ち倒れて居ました。そして世界には男子も女子も少年も少女も老人も一人も殘つて居る者がありませんでした。

「心配をなさいますな、貴方は何もしないぢやありませんか」と案内者が云ひました。

「何もしないと……私は自分の輕卒なために世界を亡ぼした事を悲しまずに居られませうか」と私は訴へました。「いゝえ貴方は何もしやしません。私が貴方に話した事を忘れましたか。何と私は申しました。皆影の樣な形式ばかりであつて、彼等は神樣の子供ではなくて智識を得ようとした形式ばかりの事に過ぎません。そして神樣が私共が考へ又は勉强して理解する樣になされたのです」と案内者が再び申しました。その時私は泣く小兒の樣に悶へ苦しみました。私は自分がした災害を見ては悲しくて慰められる事が出來ませんでした。

案内者は再び口を開いて「お聞きなさい。誰でも初めにする事ですが貴方はしたいと思つた事を唯爲ただけです。貴方はあの憐れな青年のヨセフを救はうと願つたのです。何の怪しむ事もありはしませんでせう」「勿論私はさう望みました。然し私は深く考へなかつたのです。貴方も考へなかつたのですか」と私は泣きながら申しました。

「いゝえ私も凡ての事を實見するまでは――勿論考へられなかつたのでもありませうが一度も考へませんでした」と案内者は威嚴のある笑顔で申しました。

そして彼は自分が實見したことを考へて居るのでせうが深く沈默をして居りました。間もなく其の笑は次第に消え失せました。そして叫ぶ樣に「まあよく私に見せて下さい。貴方はあの可愛相なヨセフを救はうとしたのでせう。あの全くひとりの……」

「さうです。何故私は救はうと思はずに居られたでせうか」と私は云ひました。

「どうして。彼は一人ぢやなかつたのです。人間が一人で居ると云ふことは出來ません。人間は皆一人ではありません。貴方も知つて居る通り彼所に降つて居る雨の一滴でも、地球の外の方の一粒の埃と平均して居るのです。如何してヨセフが只一人生れて只一人死ぬ事が出來ませうか。ヨセフに限らず動物でも。人間は皆只一人ではありません。神樣でさへ吾等の内にあり吾等又神樣の内に生きて居るのです……私は餘り澤山の知人を持つて居ません——ヨセフを助ようとした人の外には——然し私は此事を神に感謝して居ります」。私は長い間默つて居りましたが此時泣き乍ら申しました。

「私はどんな事があつても決してあの事を二度としはしません……決してしません。」

「決してと云ふ言葉は大變强い言葉です。貴方は決してと云ふことを餘り言はない樣に努めなさい。さて私は貴方なら多分するだらうと思ふ事を話しませう。それは貴方が普通の人々の間に生命の光を得て又その人々の目的か何かを見出した時に、吾等人間お互に皆神樣は私共の內に居られ私共は神樣の中に生きて居られる事を知つて勉勵し、又凡て世の人々のため生きて行くと云ふ事は本當に樂しい事であると云ふ事です」。案內者が私に云ひました。そして暫らく休んで又話し出しました。初めの内は私が悲しがるのを氣にして躊躇して居た樣でしたがやがて決心した樣に又云はなければならない事の樣にして初めました。

「皆とは云ひませんが、大多數の人々の中で、私の氣の著いたことは、彼等が初めから理想が全體だと

云ふ事を理解して居ないらしいと云ふ事です。アブラハムはつまらない人々達と色々な事をするよりも自然を拜するがよいと云ふので、ウルと云ふ所を去りました。貴方はどうしてヨセフが理想を以てエジプトに行く所であつた事を考へなかつたのですか。ヨセフは他の人が持つて居なかつた物を持つて居ました。貴方が他の所で見た樣にそれがなかつたら、世界が亡びると云ふ程大切な物を持つて居ましたのです」と云ひ乍ら、ふりむいて今まで考へて居た恐ろしい世界から出て來ました。そしてあの赤犬は私が殺したのぢやなくて、自分で死んだのだと考へ大變うれしく感じ、現在と云ふものが何となく面白くなりました。そして嫌ひなものや好きな物などを見て居る内、不圖ズルーランドを見て居りました。そして憐なルールー皇子が馬からすべり落ちて投槍で刺し殺されたのを見ました。若し私がその側に居て騎兵であつたならば、今頃は私も殺されて居たことだらうと思ひました。然し私は幸にも其の側に居なかつたものですから、ヨセフを思ひ出して何となく嬉しく「彼は私が惡魔だと呼んで居るものから善い事を引き起した」と私は叫びました。(をはり)

死の中なる生の幻

ジョン・ニウトン作
森田松榮譯

恥も恐も知らずして
長くも我は惡をたのしみけるが
遂にあらたなる物象はわが眼をうちて
我が狂暴の振舞を止めてき。
我は聖主の十字架の下に立ちしとき
そのなやみます聖眼にわれをば凝視り給ひて
苦悶と流血のうちに
木に懸り給へる聖主をば見まつりぬ。
そのみまなざしをば我は臨終の際まで

必ずやわすれ得ざる可し。
聖主は一言をも宣はざりしかど、
聖主の死をもて我を責め給ふがごとかりき。
わが良心は罪を悟り認めて
われをば絶望に抛入れたり。
我はわが罪が聖主の寶血をば流して
彼所に聖主をば釘づけまつりしを知れり。

あな、我はわが何を爲ししかを知らず
されど今はわが涙も甲斐ぞなき
わがをののける魂はいづこにか隱るべき
そは我こそ聖主をば殺し奉りしを。
―再び見たまふ聖主はかく宣へり
『われは凡てをば全く赦す
この血は汝が贖のため流されたり
汝が生きん爲にこそ我は死すなる。』
かくしも聖主の死はわが罪をば
そが漆黑のいろに顯はしつつも
げに恩寵の秘義なるかな
その死はまたわが赦免をば全うすなる
この生を亡ぼしつくせど―わが殺しまつりし
聖主によりて生くなる
快き哀傷と悲しき歡喜とに
わが靈は今滿たされたり。

遠足の記

あい子

降續いた雨も一兩日來晴れてしかも今日は立太子式當日の佳節。私共青年會の有志の者は東京府下調布多摩川へ遠足に出掛けました朝の九時といふに新宿の追分停留場へ集合する事に决し、案内役は萬事勝手知つたる事務の小篠さんに一任致しました、先陣の榮を荷つたはミスページと私、其次に小笹さん、松宮さん、門倉先生、有田先生に第三寄宿舍の姉妹方同行すべて十名、重さうな風呂敷包信玄袋など手に〳〵携へて小春日和に晴々とした顔をして集まりました。加藤さん其他の方々は一電車後れるとの事に私共は折好く來合せた電車に乘りました。塵の都に朝夕を送り迎へする身には紅葉綠葉の物靜な田舍の景色が殊の外に珍らしく身も心も暢々として大根

畠、芋畠に好奇の眼が灑がれました。笹塚と云ふ處にて新宿よりの電車を捨て乗換電車を待つ間凡そ卅分、再び笹塚を後にして灰塚、下上高井戸、仙川等「みゝずのたはこと」にありさうな村々田畑を打ち過ぎて、西へ〱と揺れに揺られて進みました。行く事凡そ半時餘りにして私共は目指す調布へ下車して停留場前の茶屋にて玉華園と聞くに直にそれと敎へて呉れました。左手の土手を上りて行く事數十歩玉華園は近づくさゞれ石の多摩川原を見渡す小高い山の上がそれであります。折柄の重陽の節句に鄙には稀な優美さを見せて咲き誇つて居る菊の珍種幾株、花壇を競つて飾つて居ます。ミスペーヂが都への家苞にと思召されたのも尤もであります。萩、桔梗は既に跡なく散りたれど招く尾花に逝く秋の名殘は一入深く名も知れぬ草花の數々は都人の目を樂しませるに充分であります。此處彼處の四阿は園遊會、花見の頃の賑はしさを思はせます。私共は筒井の傍なる四阿に上り暫く憩ひたる後碁盤など取寄せて五目並べを始めました、ミスペーヂのお強い事、向ふ處敵なしの體であります。其間にも加藤さんを今か〱と待つて居ました、やがて有川先生の御聲で「河井先生がお出でになりましたよ」といふに皆の顔は一様に喜びの色が閃めきました。第二着の御連中は河井先生を先頭に加藤さん渡邊さん安藤坂に御出での方々齋藤氏令息等顔觸れが揃ひましたから、御待ち兼の御辨當、御手製御自慢の御すし、サンドウヰッチお握飯等、盛に小さからぬ胃袋の中へ運ばれます。其中齋藤夫人も御令嬢達と共に後れ馳に此團居に加はられたので賑しさは一入加はりました。又改めて栗、お芋等、散々胃之吉腸三郎を驚かせたる後、多摩川の渡を渡つて向ふの岸へ。「アラお舟に乗らして頂けるの、嬉しい事」など云ふ間に向ふの岸へ着いて仕舞ひました。「船頭さんもつとゆつくりと漕いで下さい」などかこち顔なるもおかしい。堤に上がつて見渡せば多摩の河原の廣々と砂利の間を二筋に流れる白布の様な水は山水の宴を思はせます。傾きかけた夕日影は後に聳ゆる富士の嶺を茜に染めて悠揚として迫らぬ自然の風光に口々には自ら神の御業を稱へる讃美の歌は浮んで來ます。アノ美しい自然美！其昔主が弟子達を教へ給ひしガリラヤの湖も此様な景色の處ではありますまいか、河井先生は立つて此美しい自然を與へ給ひし神に熱き感謝を捧げられました。私共は共に頭を垂れて同じ心に主を讃美しました。私共は如何なる時にありても神の恵を感謝して日を送るを得るといふのは何たる幸福な事でありませう。

再び渡を渡つて元來し道へ引返し再び電車中の人となつて六時過ぐる頃家路にと就きました。アヽ樂しかりし遠足！此次には今日行かなかつた方々にも共にお出でになる様御勸め致したいと思ひます。

秋

宮城女學校一年生　村松壽恵子

庭の木の葉は大分散り始めた。可愛らしい蟋蟀の淋しい聲もいつの間にか絶えてしまつた。紅葉狩の歸りか茸狩の歸りか紅葉を肩にかついで來る人笹に茸を三つ四つさして來る人がぽつ〱見える。何處の家々でもお母様方は冬物の御仕度で忙しさう。

落葉の庭を踏みながらお父様と散歩した。三年前迄木上りをして遊んだ木には雀が騒がしく囀つて居る。裏の方に行くとダリヤは

名殘なく散つてコスモスの花が今こそ我世なれと可愛い顏を見せて居る。お隣のお庭から木犀の香が鼻を襲つて來るのが何とも云へないのでそつと覗くと直ぐ前に香の高い木犀の木が見える。濃き紅の錦を粧つた紅葉も目に付いた。お庭には矢張り木の葉が澤山に散り敷いて居る。何時しか日はとつぷりと暮れて丸い〳〵まん丸いお月樣が高く梢の上にかゝつて限無く淸い光を我が庭に投げて居る。歸らぬ旅に行かれたお母樣が未だお丈夫だつた頃の夕だつたお月樣を見て天國からも此お月樣を見る事が出來ませうかとお聞きするとお母樣は微笑んで私の髮をお撫なすつた。そのお母樣は今天國に同じ月を見ていらつしやるだらうと思はずお月樣を見上げた慈愛に滿ちた淸い光はお母樣の御心玲瓏玉の如きお月樣はさながらお母樣のお顏である。なつかしげはながめた私の眼から熱い涙が頰を傳つて流れた。私の心を思ひやつた樣に一雫の露がぽたりと音をたてゝ落ちた。はッと我に歸つて四邊を見廻すと何時の間にかお姉樣が後に立つてにこ〳〵と笑つて居らつしやる。私は急いで涙を拭いたお姉樣は靜かに「御飯ですよ」とおつしやつた。私はお姉樣についてお椽の方に行つた。露は一雫又ぽたりと落ちて寒い秋の風が袂を拂つて過ぎたので思はず襟をかき合せた。

彙報

◎東京基督女子青年會

▲料理の組 先頃ミス・パタソン加奈陀より料理科擔任の教師として來朝せられ、目下熱心に教授せらる特に本年よりは火曜及び水曜の二組に分れ何れも午後一時半より開始する都合なり、兩日共同じ科目なれば何れへなりと隨意に加入するを得べし。此際に成る可く多くの諸姉の入會を希望す。

○クリマス祝賀會 は左の日割にて開催せり。

十二月二十一日(木) 第一、第二、第三寄宿舍聯合にて
同 二十三日(土) 午前十時より好友園。午後二時より東京青年會會員
同 二十六日(火) 英語社交會
同 二十七日(水) 三井慈善病院

○大橙マーマレード 本會委員ミセス、マーラーは本會附屬好友園資金のために毎年大橙マーマレード(ジャムの類)を製して其の利益金を寄附され來りし

か、本年は本會にて製したり。一斤鑵入金四拾錢鑵なしにて金參拾錢にて入用の方へは申込次第誰方へも早速お届けいたすべし。

◎ウヰルミナ女學校青年會　過ぐる十一月中は河井先生御來阪下され何の幸か重ね〳〵有益なる御話を承る事を得し事嬉しく存じ候先生の御懇切なる御話に私共は過分に靈の糧を給はり私共青年會の爲めに愈々働く原動力を得たるが如き心地致し候會員中既に決心せる者には其告白の機を促がし未信者にも多大の感化をお與へ下されし事厚く〳〵お禮申上げ候。心に感じ膽に銘ぜし御言葉の數々思ひ出でられては心をいさめ友と語りてはお詞繰り返しつゝ一人おなつかしう存じ居候。私共の働はいと小さき物に候へども尚々全力を盡して神の御助に依り益々盛に致す決心に御座候。來るべき夏期修養會には全會員にて出席せむ等と皆々意氣込み居り候。

◎徳島女子青年會　十一月廿五日朝より廿七日夜迄河井先生が御出で下さいましたので女子青年會が蘇生致しました。先生の御出立以來二三回の集會を開きましたが會員は中々忠實に止むを得ざる用事の外必らず出席して居ります。先週土曜日に親睦會を催して種々の遊戯や幻燈等して大變愉快に過しました出席者三十五名許で大抵女學校一年生中には三年生の者も少數見受け小學校五六年生も來て居ました其時青年會の色々な報告もあり尚青年會たるものゝ意味を委しく述べ正會員準會員の區別して隔週に仕事會を正會員の者が集まつて一時間位捧げる事にしました。正會員は心から會に屬して其發展に努め又會費として一月參錢宛納める樣に定めました。卅名の出席者中殆んど其時正會員を申込んだ樣でした。先生が御話下さいました事もよく皆に分つた樣で嬉しう御座います感謝に堪へません何卒蒔かれた種子が眞に芽を出して益々生長し徳島全體の者が救はれる樣祈つて止みません。

◎川俣女子青年會　七月廿七日に母の會を開きました出席者（母廿九 子供十一）牧師と私と講話。丁度夏休

で横濱の捜眞に居ります娘と大阪神學校の高橋惠子姉と歸省して居りまして又私の從弟で東京の盲人學校の教師を致して居ります者が參つて居りましたので音樂と琴とを致しました。出席者の半數以上は琴を見た事も無い人であつたとの事です皆喜んで歸つて行きました。八月十五日には青年會の親睦會を致しました。出席者卅五名其時は幸に仙臺尙絅女學校の教授佐藤操先生が御出になつて居りましたので有益な御講話と御得意の音樂とを御願ひ致しました。實に一同喜んで散會致しました。種々の方面から主の御惠を味ふ事を感謝致して居ります。此樣な階級の女計りですから集る人の心は開けない事御察しを願ひます。

只今は十五人以上の女工を使役して居る工場は朝六時半から午後八時半迄食事中に一度卅分宛休むのです。十五人以下の工場は朝の五時より夜十時迄却つて晝卅分休みが短かくなつたのです。大きい工場が早く休める丈少さい工場が一層悲慘に思はれます。譯の分らぬ工場主は時間短縮の好果を他の工場で見て居るのにも拘はらず矢張り長時間使役して居る愚さは呆れ果てたものです。何とかして工場の時間が同じ勞動時間になる樣致し度ものです。前述の譯故休養所に晝は集まる時間はなくなりし樣な譯です。先月から製糸所より七人の女工夜業後に習字を習ひに參ります。又其内大きい工場の工女で九時より十時迄裁縫を習ひに參ります者が五人何れも上達の早いのには驚くばかりです毎金曜日の夜工女の集會を開きます。此等の工女の柔順と勉强とに依つて私の學ぶべき事の多き事を感謝して居ります。一ケ月に二回青年會の集會を開き牧師と私が何時も講話を致します。其後に簡易な料理の研究會を致します。十二三人の時も八九人の時もあり皆自分の家の樣にして出入します事を感謝して居ります。工女の方は少なくなりましたが普通の娘の會員も出來ました事を喜んで居ります。只私は無經驗で力もなく皆々樣の御働きを拜見致しては恥かしく存じます。何卒此

小さい會の上に上よりの御助の多からん事を皆々様の御祈の端にも覺え給はらん事を御願ひ致します。

（田丸よね子來信）

◎河井幹事　前號所報の如く去る十一月より一ケ月間關西地方を巡回し廣島、岡山、姫路、播州、別府、德島、神戸、大阪、京都、靜岡等を經て各地共非常の歡迎を受け到る所集會に出席し四十七回の講話及び個人訪問をなし會友同情者等と友誼を暖め感謝と欣を以て十二月九日夜無事歸京されたり。

消息

○市村與市氏　名古屋金城女學校の教頭なる同氏は上京の途次本部を訪問せらる。

○河瀬さと子　京都佐伯病院看護婦學校出身なる同姉は今回香港病院に招聘され近日出發。

○田丸よね子　川俣青年會休養所取締の同姉は十二月上旬上京青年會本部へ立寄らる。

○吉田いと子　青山女學院卒業後永らく米國沙市桑港等に於て家事科を研究し本年三月歸朝されしが今回横濱女子青年會の移民部の爲に働かるゝことゝなれり。

○横山きち子　東京三井慈善病院に永らく働かれし同姉は昨春より靜岡縣下小山なる富士紡績會社内病院に奉職されしが去六月頃チブスにて一時危篤なりしも幸平癒され保養の爲上京の際本部を訪問さる同姉の盡力にて是迄基督教には大反對なりし同會社内にも目下二百名許の求道者有り既に十三名の愛讀者を女工中に得られし由感謝すべき事なり。

おとづれ

◎便利な何でも入る袋を縫ひました

カナダ　大呑久子

本女子青年會に河井先生の御歸朝は如何に御悦びの事でせう、先生を御迎へせずして外國に來ましたのは誠に殘念で御座います。然し私が修發し勉學して少しでも役に立つ者になつてから御目に懸り度いと祈つて居ります。此地に參りました事は本當に神樣の御導きで私を遣はしになつたと信じます。私は申上げるも御恥かしい事ですが迚も勉學の爲に此地に遣はれる樣な「私」では無いと申上げねばなりません。然しモーセに神が答へ給ひました樣に神樣が共に居ますと私の心に私語き給ひますから努力して居ります。先生方皆々樣御親切に私を特別よく敎へて下さいます。友達もよく助けて下さいます。私が獨りで居るのは朝起きた時と寢る時だけ他は方々へ遊びに行き又私の室へも來て下さいます。先生が色々淋しいか〳〵と御尋ねになりますが全く淋しい等とは露も思はれません。赤十字の仕事が今日から始まりまして、私は便利な何でも入れる袋を縫ひました。今日は手紙書きと訪問を受ける時間が御座いまして、毎週此の日には誰か來て下さいます。今日は雨降りです。黄色い楓に雨の靜かに降り灑ぐ風情は中々捨て難う御座います。先達ミス、カフマンの御友達のミス、ウエルスといふ方が阪本樣と私を御宅へ御連れ下さいました。其時「鹿の園」といふ所を通りました。谷の上に長い橋が架かつて其下幾丈も紅葉が青風に靜かに靡いて其間に細い流を見下した時には、秋の日光を思ひ出しました。何處も秋の景色は違ひありません。もう當地は中々寒

う御座います。今日も雪が降りさうな空模様で御座います。然し室内に居ては春の暖い心地が致します。

◎自分で自分が恥しくなります

徳島　高橋久與

御待ち申上げて居りました河非先生の御來徳は早半月以前の夢となりました、四日間と口には申しますが然し實際御目もじ致したのは一時間位にしか考へられません力の無い不足勝な私も受けた丈は與へたいと存じます殊に毎日愛らしい族子を相手にする間に何程與へる機會を受けて居るかを考へ實に責任のある事を感じ同時に過去に於て何程與へて來たか自分で自分が恥かしくなりますそして自分の心に顧つて此位置に置かれた事を有難く思ひ日々よき敎師になりたいと努力して居ります、御敎へ下さいました樣に兩敎會に屬する私共の青年會員は十人計り集つて早速月曜日晚に第二回目を催しました、私共集を大變樂しみにして居りますお互に一週間考へた事氣が付いた事等申合せ又讃美歌の御稽古或時は相談會感話會をして居ります未だ生れたてゞすから以後益々成長して眞に御榮の現はれる活きた會に致したいと存じます御忠告御敎導を願ひます。

◎近所の方々にもお見せ申上候

鹿兒島縣　青山英

毎々雜誌御送り被下有難く御禮申上候いつも有益に拜見致し居り近所の方々にもお見せ申上候過日は初めて當地に傳道開かれ誠に感謝致し居り候今後月一二回宛は開かるゝ樣只管祈り居り候願はくは皆樣御祈りの時村人の一人にても信者の出來得る樣數ならぬ私も神

樣の御用を果し得る樣に御加へ被下度候、別紙の切手は萬國青年會への會費に御送り申上候。

◎「女子青年界」を御讀讀下さるやう

臺灣南庄　島田はつ子

私共は御蔭樣にて常に御惠みの下に樂しく平和に送光致して居りますが神樣の爲め何の働きもなす事なく只々日每變化なく過して居ります事誠に恐れ多く且つ恥しく存じて居ります、當地は臺中市より七里程離れたる高原地にて家屋も誠に少なく殊に官舍と申してき十數軒にも足らざる樣な次第にて他は皆農家或は本島人のみの村落の如き處にて學校も無く敎會は申上ぐる迄もなく御座いません。それ故都合宜しき折には禮拜に臺中迄參りますが山地故往復八時間餘り掛かりますので一日掛りでは少々困難で有ります故に種々なる雜誌敎會報新聞等によりてのみ新しき知識を得るので御座います。私は「女子青年界」「福音新報」「婦人の友」「文明評論」「開拓者」等の宗敎的雜誌を一番樂しみに致して待つて居ります。そして近邊の奥樣方にも御目にかけて「女子青年界」を是非御購讀下さる樣にと御願ひ致して居ります。扨十月十四日にはバザーが開催せられましたさうて御座いますが定めて御惠みに滿たされてよき結果を得られし御事と存じて居ります、私の樣な者でも御地に在らば何か御手傳をさせて戴いたのに離れて居りますので誠に殘念で御座います。

◎一友人も是非「女子青年界」を見たしと

臺灣　古谷さえ

毎々雜誌「女子青年界」により種々厚き御敎訓を戴き誠に感謝に堪

えず候就ては私事及ばぬ勝の御手傳の爲め日曜學校へ參り居候一友人も是非「女子靑年界」を拜見したいとの事に候故御手數乍ら來月より御送り給はり度候、先年河井先生の御渡臺遊ばされ候節は未だ古き會堂に候ひしが漸く本年新築工事完成致し去八月獻堂式を終へ候御其節は御地より植村先生及前牧師の河合先生にも金澤より遙々御列席の爲御出を給り誠に盛大に有之候。

◎本年は丈夫になりピン／＼致して居る

神奈川　小野小松

不在勝て御座いますので皆樣に御無沙汰申上げ誠に申譯御座いません私は昨年は病床に居りましたが本年は丈夫になりピン／＼致して居る事は誠に感謝に堪えません、

○特別寄附金領收（本部報告）

金貳拾五圓也　ミス、ゲインス
金拾圓也　同志社青年會、金城女學校、神戸女學院、上代淑子氏、靜岡母の會
金五圓也　ミス、プレストン、吳婦人會、ウキルミナ女學校、ミス、ソール

○萬國負擔金金額領收（本部報告）

金六圓七拾六錢也　宮城女學校青年會
金四圓參拾六錢也　プール女學校青年會
金參圓八拾錢也　搜眞女學校青年會
金五圓拾參錢也　女子英學塾
金六拾四錢也　女子學院青年會
金參圓五拾貳錢也　同志女學校
金六圓六拾八錢也　ウヰルミナ

葛山喜代子其他會友諸姉の寄贈金

金壹圓也
貳圓拾八錢也

○入會申込者 本部報告

大久保すゞ、阪口喜代

○會友會費領收（本部報告）

○金壹圓也
岡部　わか（五ノ十一―六ノ十）　大久保すゞ（五ノ十二―六ノ十一）
寺内　ぶん（六ノ一―同十二）　高田　常代（六ノ一―同十二）
藤井　歌（五ノ二―六ノ一）　高橋　久與（五ノ十二―六ノ十一）
岡山　はな（五ノ九―六ノ八）　逸見　たま（四ノ一―十二）
阪口　喜代（五ノ十二―六ノ十一）　堀部　くにえ（五ノ四―六ノ三）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金壹圓六拾錢
芝　みつの（五ノ五―七ノ四）　今井　光（五ノ一―六ノ十二）
金貳圓四拾錢
竹川　八重（五ノ一―六ノ十二）
金八拾錢
三井　拾子（五ノ三―六ノ二）
金壹圓七拾錢
奧田　文（四ノ一―六ノ三）

一女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年十二月廿八日印刷納本
大正六年一月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

Committee must consider this proposition seriously, and when the Osaka work begins, the first step naturally would be along this line. He was most cordial and allowed our secretary to see the whole plant; that is, the dormitories, hospital, school, shops, dining rooms, kitchen and factory proper. He also invited her to have lunch with the supervisors of the work. When she asked him if she would be allowed to come back some time and stay two or three weeks to study the problem for the girls, he was most willing to have her come.

The next place visited was Tokushima, which is the largest city in Shikoku Island. Some years ago Mrs. Cambridge, C. M. S., started a branch association, and Miss Kawai visited this place five years ago. Since she left it has been very difficult to keep up the association. However, Miss Preston of the same board is most sympathetic and through her effort Miss Kawai was asked to come to encourage the girls and re-organize the association. Miss Lumpkin of the Presbyterian Board also has Bible classes for school girls, though they are not affiliated with the Y. W. C. A. Both of these workers are most desirous of bringing real co-operation and good feelings between the two missions. The National Committee must consider how to bring the individual girls' association of the different churches under the National Committee as branch associations, like those of Germany. A most happy thing happened; that is, about ten Christian workers, who represent both churches came together and organized a little club, so to speak, to meet every Monday evening to study the Bible together, and exchange their experiences in their Christian work and to study the conditions of the girls. Two of them are teachers in a government school, three of them, Bible women under the Presbyterian church and the rest are workers in the Episcopal church. This body will certainly become the nucleus of the association when the city association is started.

The next city visited was Osaka. Here Miss Kawai spoke at Poole's, Wilmina and Baika girls' schools, and addressed two public meetings besides. One of these meetings was arranged by the Governor's wife, Madame Hirooka and Miss Tristram, the two last named are on our National Committee. It was the first time that women in general heard of the Japanese problem which exists in California.

The next place visited was Kyoto. Doshisha Girls' School is a very promising centre for our work. The girls undertook the association entirely and with a great deal of difficulty they are planning a big campaign for membership and for finance work. Miss Miyagawa who studied in England, is a most sympathetic supporter in that school. Mrs. Saiki, whose husband has a big hospital in Kyoto is also on the National Committee. Miss Kawai received a warm welcome at her home, and she was able to present the Association work to the Doctor and his wife. Dr. Saiki's sympathy for our work dates from the very beginning, and he hopes the Kyoto Association will soon be established among the factory girls.

The last place Miss Kawai visited was Shizuoka. She spoke at the girls' normal and later at a woman's meeting. Here, there is a very well known girl's school under the Methodist Board. Miss Lindsay, from Canada, who had Y. W. C. A. training some years ago in America is a teacher there, and several of the Japanese teachers used to go to our Summer Conferences while they were students in the different schools. Therefore, there is much hope that an association could be started there in the near future.

In brief Miss Kawai had forty-seven big meetings and many group meetings besides, and also many individual talks on religious and educational questions. She was applied to now and then by women to find positions for them. She was very much encouraged to find that many people are ready to help when the work is started in their districts. She felt that more workers are needed, and especially Japanese workers must be trained to man the situation.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV — JANUARY, 1917 — NUMBER I.

On November 10th Miss Kawai left for Nagoya, where the Southern Presbyterians have a very nice school for girls. During the last few years this school has been re-built, and the staff of Japanese teachers is most capable. The unity of teachers and girls is perfect. The school started a public lecture course in memory of the coronation of the present Emperor. At this meeting three women speakers were invited from Tokyo: Miss Yasui, a well known educator, whose career in England and Siam, is well known among us; Mrs. Hani, whose woman's magazine is considered the best in Japan, and Miss Kawai, national Y. W. C. A. secretary. The meeting took place at the city hall with an attendance of 1,500. It is said that it is the first time that a meeting was held with women speakers on women's questions. The interesting thing is, that these three women speakers are all Christians, representing different activities of society to-day.

The next place Miss Kawai visited was the Hiroshima girls' school, started by Miss Gaines under the Methodist Board. The author of "The Lady of the Decoration" started her kindergarten here. The school has a history of thirty years. A man from that province once went to America and came back inspired with Christian faith. He applied to a few of his Christian friends to start a school and Christian work in his native city. That was the beginning of this wonderful school, which has four departments: kindergarten, primary school, high school, and a kindergarten training course, with an enrollment of 600.

After four days in Hiroshima, Miss Kawai went to Okayama in order to visit Miss Kajiro, the principal of Sanyo girls' school. Miss Kajiro is on the National Committee of the Y. W. C. A. Her school has just celebrated its thirtieth anniversary, and her Christian influence is widely felt in that city and in all that vicinity.

The next place visited was Himeji, where Miss Wilcox has a beautiful school called Hinomoto Girls' School, which is under the Baptist Board. Miss Rumsey who is now working in Seattle for Japanese people used to be a teacher at this school. We hope there will soon be a branch association started in this school. A friend of Mrs. Ibuka lives in a beautiful place called Beppu, which is near Himeji. Mrs. Taki is most fortunate in having wealthy, consecrated Christian parents who visited America a few years ago with a party of business men from Japan. This place is flourishing because of Mr. Taki's factory, where a great many men and women are employed. A private kindergarten was started by this family and through it they are doing good work for the families of employees.

One of the most flourishing branch associations is that of Kobe college. The teachers give free hand to the association there, and the girls are quite capable of going ahead and planning all sorts of meetings. They are very active, working for the telephone girls of the city, and as their first endeavor they took Miss Kawai to hold a meeting for factory girls. Thirteen hundred girls attended the meeting. The association girls presided, arranged the program, sang both Japanese and English songs, and introduced the speakers. The manager of the factory was very much impressed with the whole affair. He was glad to see Miss Kawai the following day to talk the matter over. His suggestion was that the National Y. W. C. A. should undertake to establish a training school for matrons who look after these factory girls, since most of the factories in Japan have dormitories in their compounds. The National

SUNDAY SCHOOL SUPPLIES.

Peloubet's Select Notes on the International S. S. Lessons	2.50-.12
Gist of the lessons, by Torrey	.55-.06
Tarbell's Teachers' Guide.	2.50-.12
The Lesson Handbook, by Meyer	.55-.06
Berean Leaf Cluster (Picture Rolls, Quarterly) Per Year,	10.00-.48
Berean Cards Per Year,	40-.08

萬國日曜學課(リーフレット)週刊十五組以上郵税不要
一枚三厘、期刊雑誌萬國日曜學課一ヶ年四回發行

スザンナウエスレー傳、スペンサー女史元良ヨネ子女史共著……….25-.06
ハリス夫人傳、山鹿旗之進著……… 1.00-.08
七日間、美山豐子、田中夕風共譯…… 35-.06
歐米女子立身傳、根本正譯………… .40-.06
へれんけらー自叙傳我身の物語……50-.08
犂より、ミラー原著、伊藤宗輔譯……30-.06
みあしのあと、セルドン原著、安孫子貞次郎譯……….55-.08
戰場の婦人、沖野、吉田共著……….20-.04
家庭清話、堀口翠嶺著……….30-.04
野百合、碧川企救男著……….25-.04
星影、三浦泰一郎著……….30-.04
怒るな働け、一嘉悦孝子著……….80-.08
巖の處女、ダヌンツイオ著、知達譯 1.10-.08
武藏野の一角に立ちて、別所梅之助著……… 1.10-.08
(縮刷)何處へ行く、松本雲舟譯……1.10-.08
一日一善、山本瀧之助著……….65-.08
日々の力、根本正譯、……ポッケット形紙貳拾五錢、布四拾錢、皮九拾錢
同 四六版紙參拾五錢、布五拾錢、皮壹圓
日々の基督、津金澗村著…… 1.30-.08
靈交錄、フォスヂック原著、栗原基譯……….80-.08
耶蘇の人格、栗原基譯……….60-.06
クリスマス對話集、小野兵衛著……35-.06

Gospel Story in Art, by John La Farge ……… 8.25-.2
Life of Jesus of Nazareth, by Hale, ……… 4.15-.16
Greater Men and Women of the Bible, by Hastings ……… 3.30-.12
Quiet Talks on Prayer, by Gordon ……… 1.40-.08
Quiet Talks on Service, by Gordon ……… 1.40-.08
Thirteen Appreciations, by Whyte ……… 3.30-.08
Second Coming, by Kummer & James ……… 1.10-.08
Loneliness of Christ, by Keadle .85-.06
Discipline of Prayer.(1916)……… .77-.06
Illustrated History of Music, by Lapper ……… 4.15-.12
A B C of Cooking ……… 1.10-.06
Songs for Quiet Hours, by Plante ……… 1.10-.08
A Erench Woman's Notes on the War, by De Pratz ……… 3.30-.12
Advice to a Wife, by Chavasse 55-.08
What a Young Girl ought to Know, Mrs. Wood-Allen ……… 2.20-.12
Wha ta Young Woman ought to Know, Mrs. Wood-allen……… 2.20-.12

PERRY PICTURES sizes range from $5\frac{1}{2}$ X 8 to 19 X 23, prices from 5 sen to Y 4, copies of the world famous paintings done in sepia and in black and white, appropriate for Christmas Gifts.

銀座　**教文館**　東京
(振替東京一一三五七)(電話京橋二五二)

女子青年界第拾四巻第一號（毎月一日一回發行）
大正五年十二月廿八日印刷納本　大正六年一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可